

平成27年度
市民意識調査結果報告書

平成27年12月
十和田市

目次

第1章 調査の概要.....1

(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査対象.....	1
(3) 実施時期.....	1
(4) 調査方法.....	1
(5) 回収結果.....	1
(6) 集計に関する留意事項.....	1

第2章 集計結果.....2

第1節 回答者の基本情報.....	2
(1) 性別.....	2
(2) 年齢.....	2
(3) 職業.....	3
(4) 居住地区.....	3
(5) 通算の居住年数.....	4
(6) 世帯構成.....	4
第2節 十和田市に住むことになった理由について.....	5
(1) 住むようになった理由.....	5
(2) 転入前の居住地(県内).....	6
(3) 転入前の居住地(県外).....	6
(4) 引っ越してきた理由.....	7
第3節 市政全般に対する満足度・重要度.....	9
(1) 現在の満足度.....	9
(2) 今後の重要度.....	11
(3) 満足度・重要度の分布.....	14
(4) 優先すべき施策.....	17
(5) 住みやすさ.....	19
(6) めざすべきまちの姿.....	21
第4節 合併による効果等について.....	24
(1) 合併時の居住地.....	24
(2) 合併後の一体感.....	24
(3) 合併後のまちづくりの進み具合.....	25
(4) 合併による効果.....	26
(5) 合併してよかったかどうか.....	28
第5節 結婚について.....	29
(1) 配偶状況.....	29
(2) 結婚に対する意思.....	31
(3) 結婚したい年齢.....	32
(4) 結婚をしていない理由・したくない理由.....	34
(5) 市の結婚支援の実施について.....	36
(6) 具体的な結婚支援策について.....	37
第6節 出産について.....	38
(1) 現在の子どもの数.....	38
(2) 理想の子どもの数.....	38
(3) 理想の子どもの数と現実との差異.....	39
(4) 理想より子どもの数が少ない理由.....	40

(5) 市の出産支援について	43
第7節 子育てについて	45
(1) 市の子育て支援について.....	45

第1章 調査の概要

(1) 調査の目的

- 第2次十和田市総合計画の策定にむけた、これまでの施策に対する満足度や今後力を入れるべき施策等についての意識・意向の把握

(2) 調査対象

- 住民基本台帳に基づき平成27年7月1日現在十和田市内在住の20歳以上の市民から無作為に抽出した4,000人

(3) 実施時期

- 平成27年7月～8月

(4) 調査方法

- 郵送調査法（調査票を対象者に郵送し、返送を以って回収）

(5) 回収結果

- 有効回答：2,038／4,000件（回答率51.0%）

(6) 集計に関する留意事項

- ✓ 回答割合の算出においては、小数点以下第2位を四捨五入して端数処理を行っているため、各回答の割合の合計が100%にならない場合があります。
- ✓ 複数回答の設問では、各回答の割合の合計が100%にならない場合があります。
- ✓ 設問ごとに母数N、複数回答の場合は回答総数MAを記載しています。

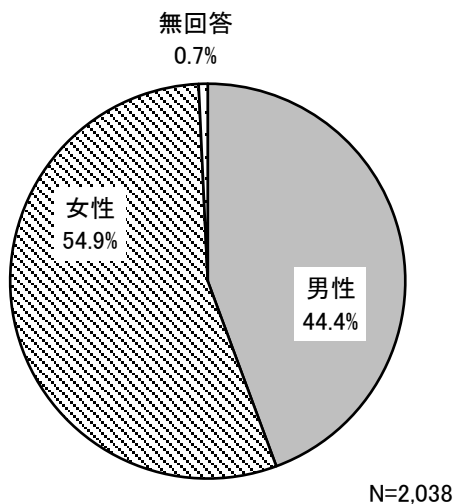
第2章 集計結果

第1節 回答者の基本情報

(1) 性別

問1)あなたの性別について、次の中から当てはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

□ 「男性」が44.4%、「女性」が54.9%となっています。

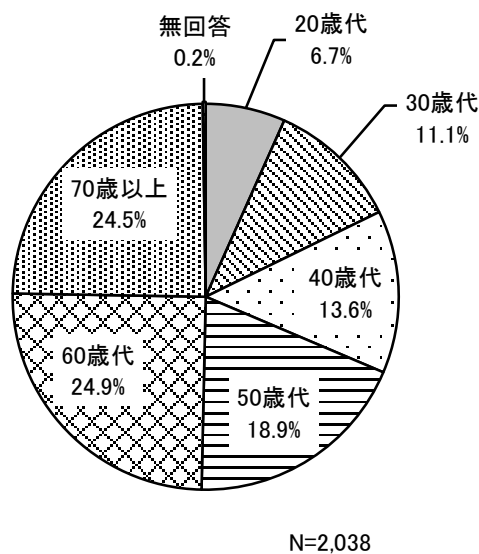


(2) 年齢

問2)あなたの年齢について、次の中からあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

□ 「60歳代」が24.9%で最も多く、これに次ぐ「70歳以上」の24.5%とを合わせると、回答者の50.4%が60歳以上となっています。

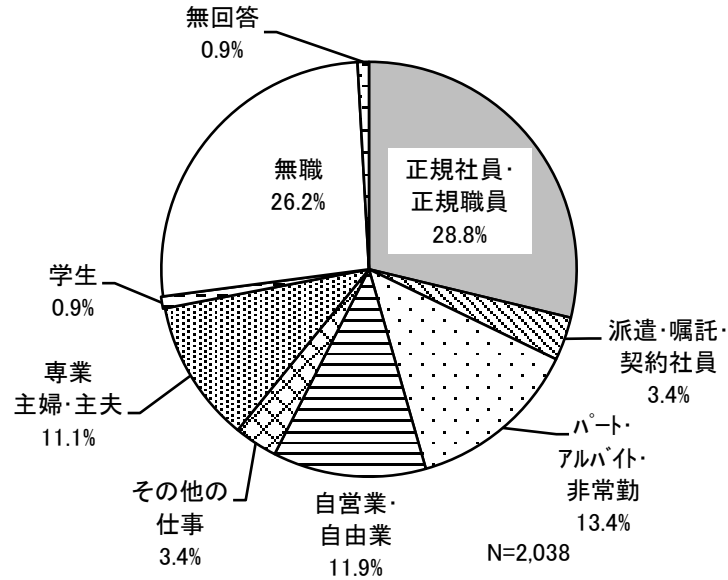
□ 60歳未満の年齢構成を見ると、「50歳代」が18.9%、「40歳代」が13.6%、「30歳代」が11.1%、「20歳代」が6.7%となっており、年代が下がるにつれて回答者全体に占める割合が低くなっています。



(3) 職業

問3)あなたの職業について、次の中からあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。
なお、兼業の方は、主な職業を1つだけ選んで○をつけてください。

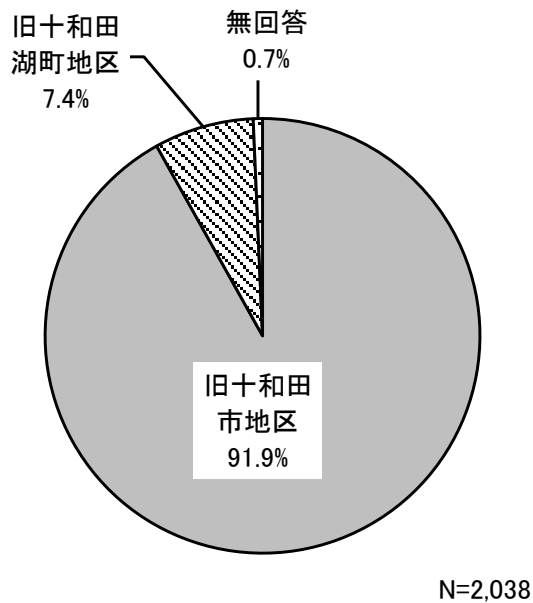
- 「正規社員・正規職員」が28.8%で最も多く、次いで「無職」が26.2%、「パート・アルバイト・非常勤」が13.4%、「自営業・自由業」が11.9%などとなっています。



(4) 居住地区

問4)現在、あなたがお住まいの地区について、次の中からあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

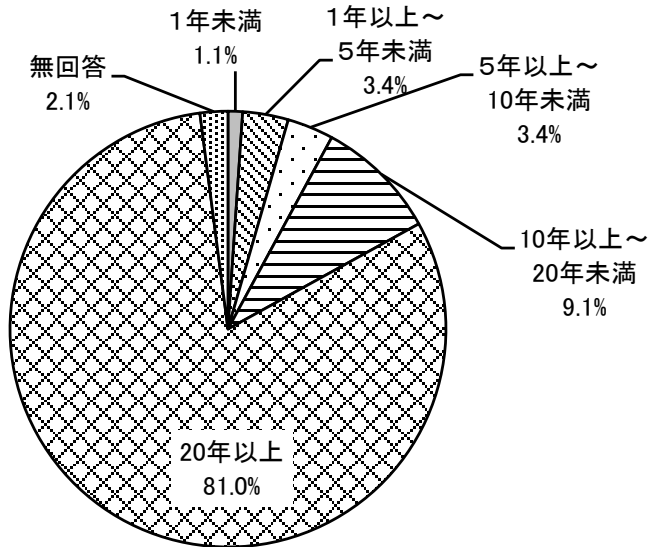
- 「旧十和田市地区」が91.9%、「旧十和田湖町地区」が7.4%となっています。



(5) 通算の居住年数

問5)あなたが、十和田市(※旧十和田湖町を含む)にお住まいになって通算で何年になりますか。
次の中からあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

- 回答者の年齢層が高かったこともあり、「20年以上」が81.0%を占めています。
- 一方、居住して5年未満の回答者は4.5%にとどまっています。

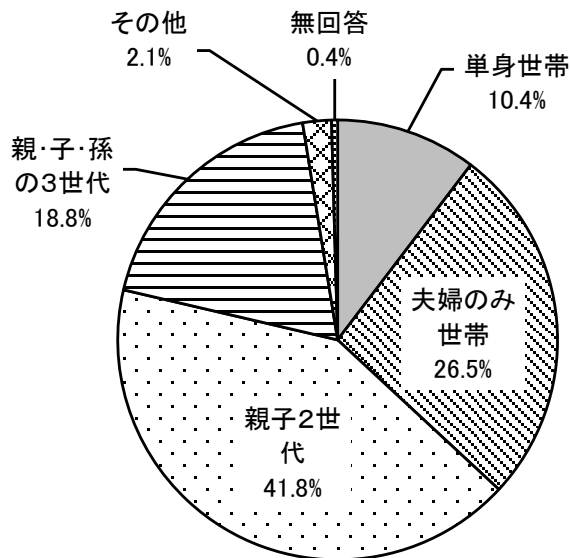


N=2,038

(6) 世帯構成

問6)あなたご自身を含め、現在、同居されているご家族の構成について、次の中からあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

- 「親子2世代」が41.8%で最も多く、次いで「夫婦のみ世帯」が26.5%、「親・子・孫の3世代」が18.8%、「単身世帯」が10.4%となっています。



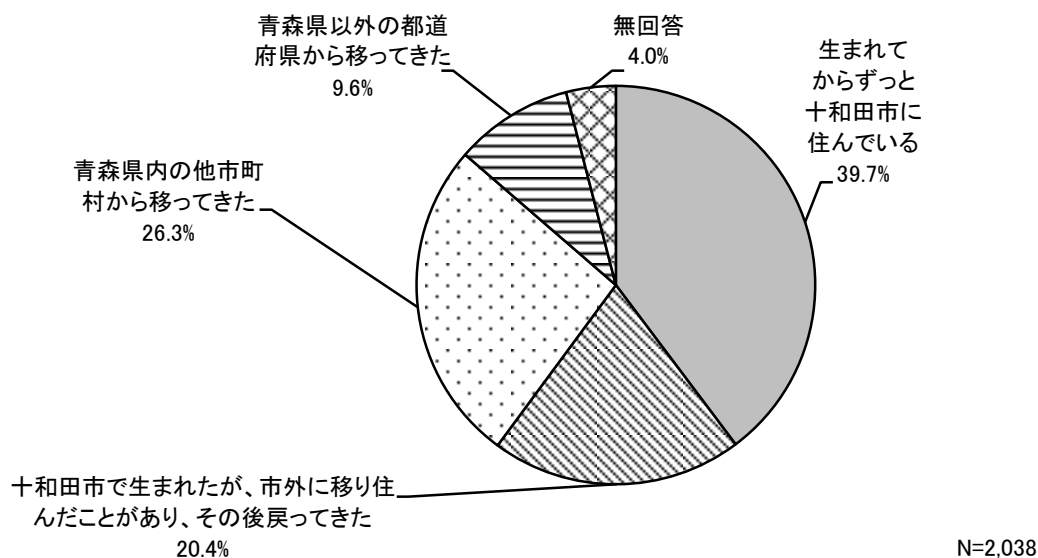
N=2,038

第2節 十和田市に住むことになった理由について

(1) 住むようになった理由

問7) あなたはどのようにして、十和田市に住むようになりましたか。次の中から、あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

- 「生まれてからずっと十和田市に住んでいる」が39.7%で最も多く、「十和田市で生まれたが、市外に移り住んだことがあり、その後戻ってきた」の20.4%と合わせ60.1%が十和田市出身となっています。
- 一方、市外から転入してきた回答者は、「青森県内の他市町村から移ってきた」が26.3%、「青森県以外の都道府県から移ってきた」が9.6%となっています。
- 男女別の傾向を見ると、「青森県内の市町村から移ってきた」の回答者の割合は、男性に比べて女性の方が約10ポイント高くなっています。



[男女別の傾向]

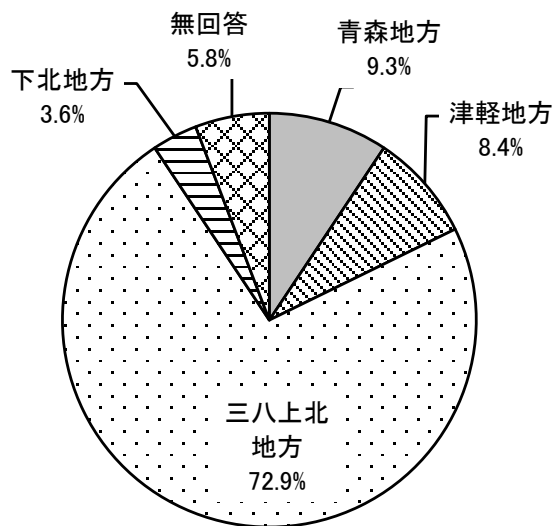
(単位: %)

<凡例>	生まれてからずっと十和田市に住んでいる	十和田市で生まれたが、市外に移り住んだことがあり、その後戻ってきた	青森県内の他市町村から移ってきた	青森県外の都道府県から移ってきた	無回答
全体[2038]	39.7	20.4	26.3	9.6	4.0
男性[904]	42.0	22.3	21.3	11.1	3.2
女性[1119]	38.1	18.9	30.2	8.5	4.3

注) 全体[2038]には性別無回答15人を含みます

(2) 転入前の居住地(県内)

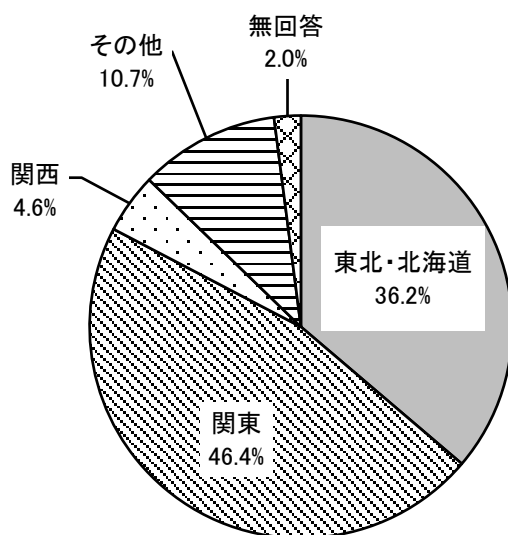
- 県内から転入してきた回答者について、転入元は「三八上北地方」が 72.9%を占めています。
- 三八上北地方以外では、「青森地方」が 9.3%、「津軽地方」が 8.4%、「下北地方」が 3.6%となっています。



N=535

(3) 転入前の居住地(県外)

- 県外から転入してきた回答者について、転入元は「関東」が 46.4%と最も多くなっています。
- 関東以外では、「東北・北海道」が 36.2%、「関西」が 4.6%、「その他」が 10.7%となっています。

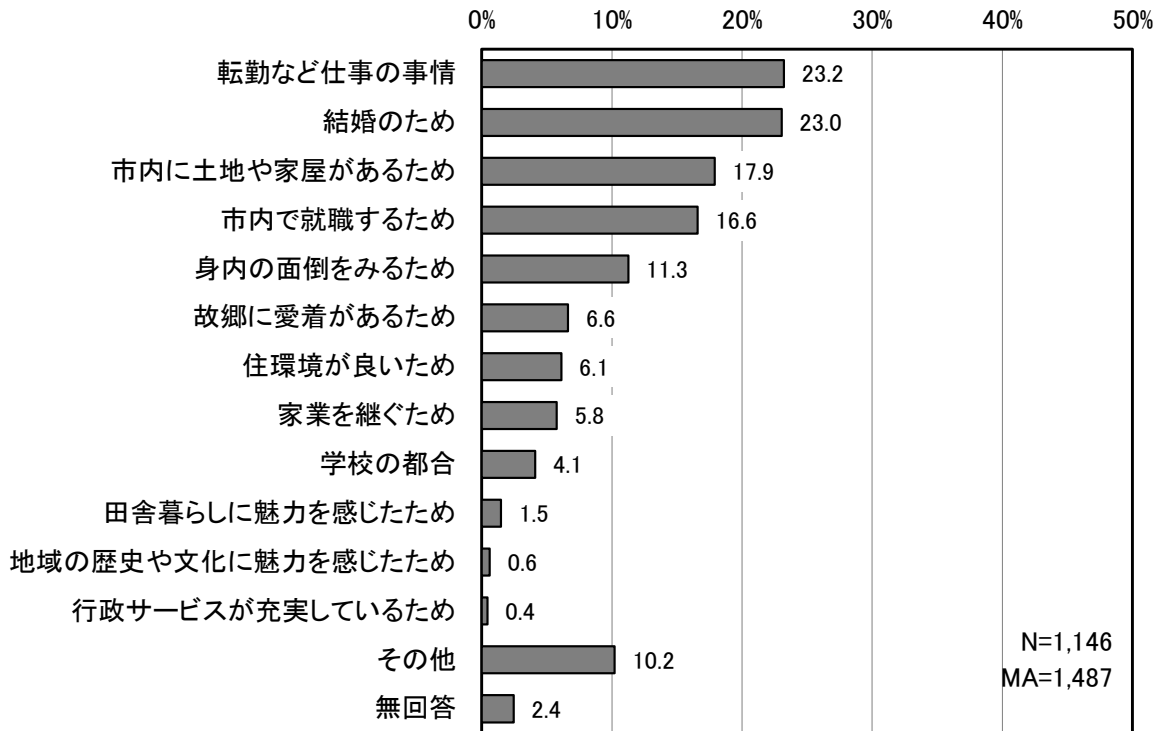


N=196

(4) 引っ越してきた理由

問7-1)あなたが十和田市内に引っ越すことになった理由について、次の中から、あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。(※問7「2. 十和田市で生まれたが、市外に移り住んだことがある、その後戻ってきた」、「3. 青森県内の他市町村から移ってきた」、「4. 青森県以外の都道府県から移ってきた」の選択者のみ回答)

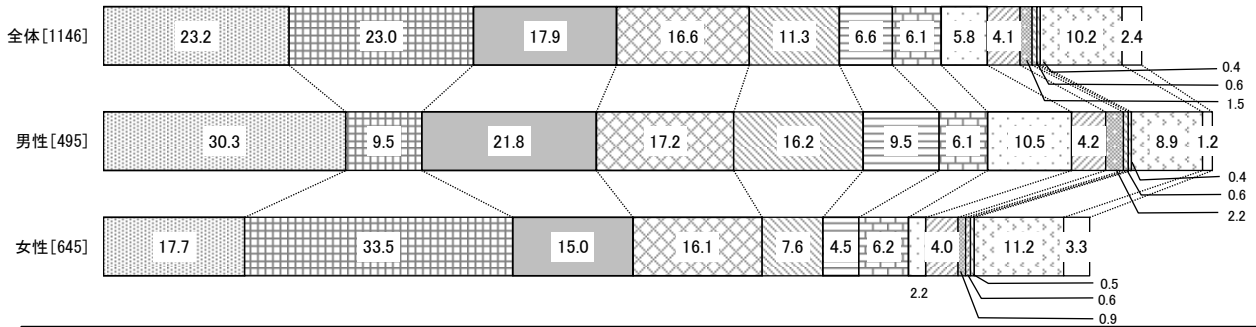
- 「転勤などの仕事の事情」の 23.2%と「結婚のため」の 23.0%が同程度、次いで「市内に土地や家屋があるため」の 17.9%、「市内で就職するため」の 16.6%などとなっています。
- 「その他」の理由としては、実家への帰郷に関するもの（「実家があるため」等）や、家族構成の変化に関するもの（「離婚したため」等）が多く記述されているほか、転勤等親の都合による引っ越し、本人または配偶者等の就労、利便性を求めている引っ越しといった理由が寄せられています。
- 男女別の傾向を見ると、男性では「転勤など仕事の事情」が 30.3%となっており、女性の 17.7%よりも 10 ポイント以上高くなっています。一方、女性では「結婚のため」が 33.5%と最も高く、男性の 9.5%よりも 20 ポイント以上高くなっています。
- 年齢別の傾向を見ると、20 歳代では「転勤など仕事の事情」が 29.4%と最も多く、「結婚のため」は 10.3%にとどまっていますが、30 歳代になると、「結婚のため」が 24.5%と約 15 ポイント増加しています。



[男女別の傾向]

※複数回答のため全体および男女の合計割合が異なります。

(単位:%)



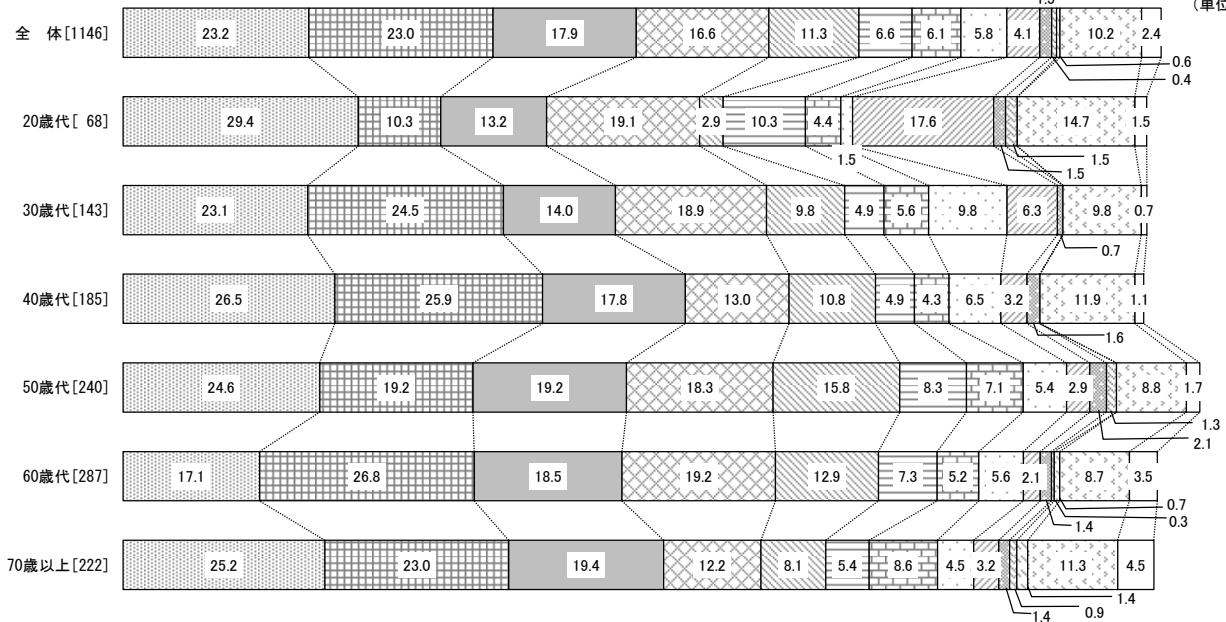
- 転勤など仕事の事情
- 結婚のため
- 市内に土地や家屋があるため
- 市内で就職するため
- 身内の面倒をみるため
- 故郷に愛着があるため
- 住環境が良いため(交通・買物・治安など)
- 家業を継ぐため
- 学校の都合
- 田舎暮らしに魅力を感じたため
- 地域の歴史や文化に魅力を感じたため
- 行政サービスが充実しているため
- その他
- 無回答

注) 全体[1146]には性別無回答者6人を含みます

[年齢別の傾向]

※複数回答のため全体および各年代の合計割合が異なります。

(単位:%)



- 転勤など仕事の事情
- 結婚のため
- 市内に土地や家屋があるため
- 市内で就職するため
- 身内の面倒をみるため
- 故郷に愛着があるため
- 住環境が良いため(交通・買物・治安など)
- 家業を継ぐため
- 学校の都合
- 田舎暮らしに魅力を感じたため
- 地域の歴史や文化に魅力を感じたため
- 行政サービスが充実しているため
- その他
- 無回答

注) 全体[1146]には年齢無回答者1人を含みます

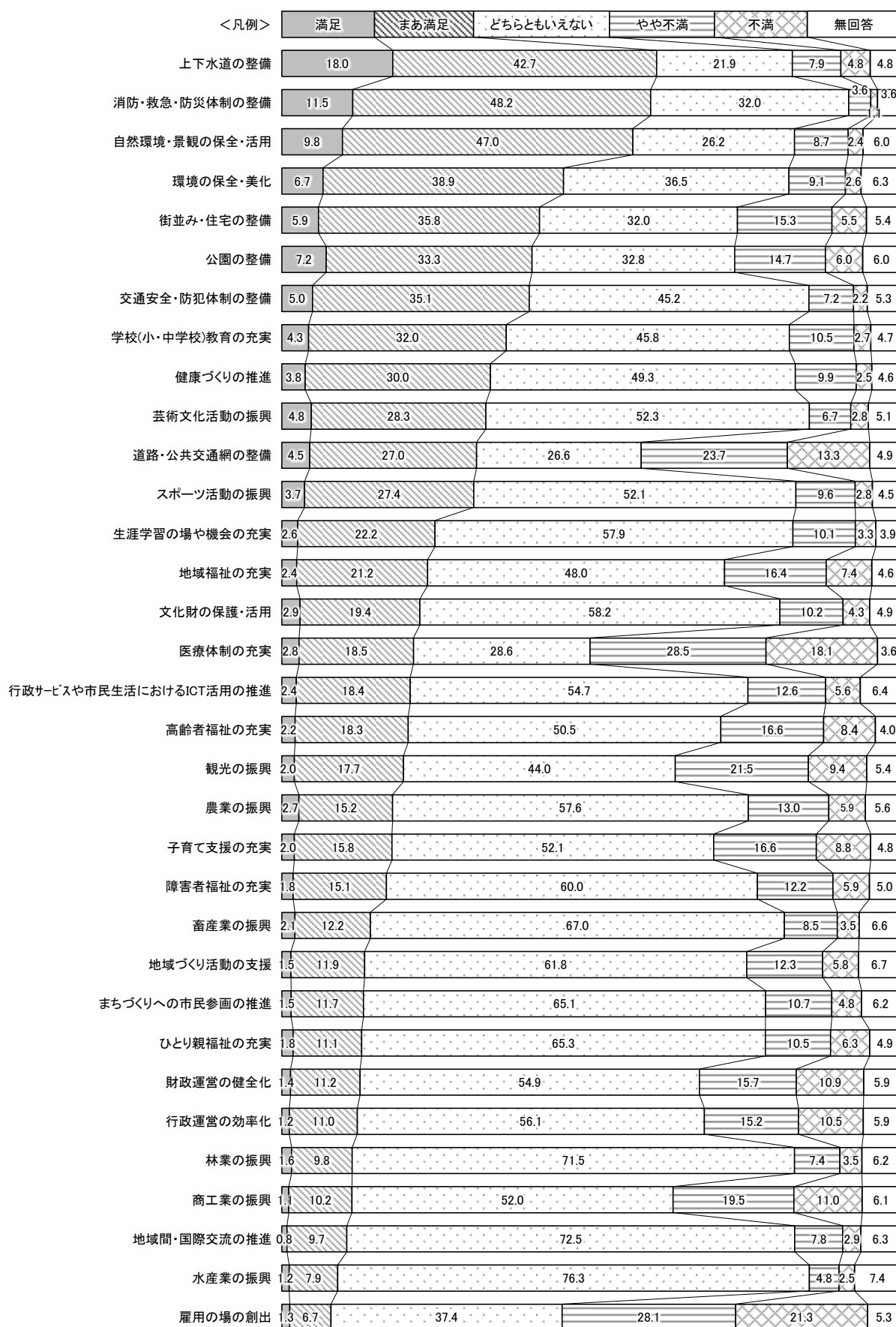
第3節 市政全般に対する満足度・重要度

(1)現在の満足度

問8-1)十和田市が取り組んでいる以下の施策(基本的取組)に関して、現在の満足度をうかがいます記入例にならって、次表に示した1~33の施策ごとに、日ごろの印象を含め、あなたご自身のお考えに最も近い番号を1つずつ選んで○をつけてください。

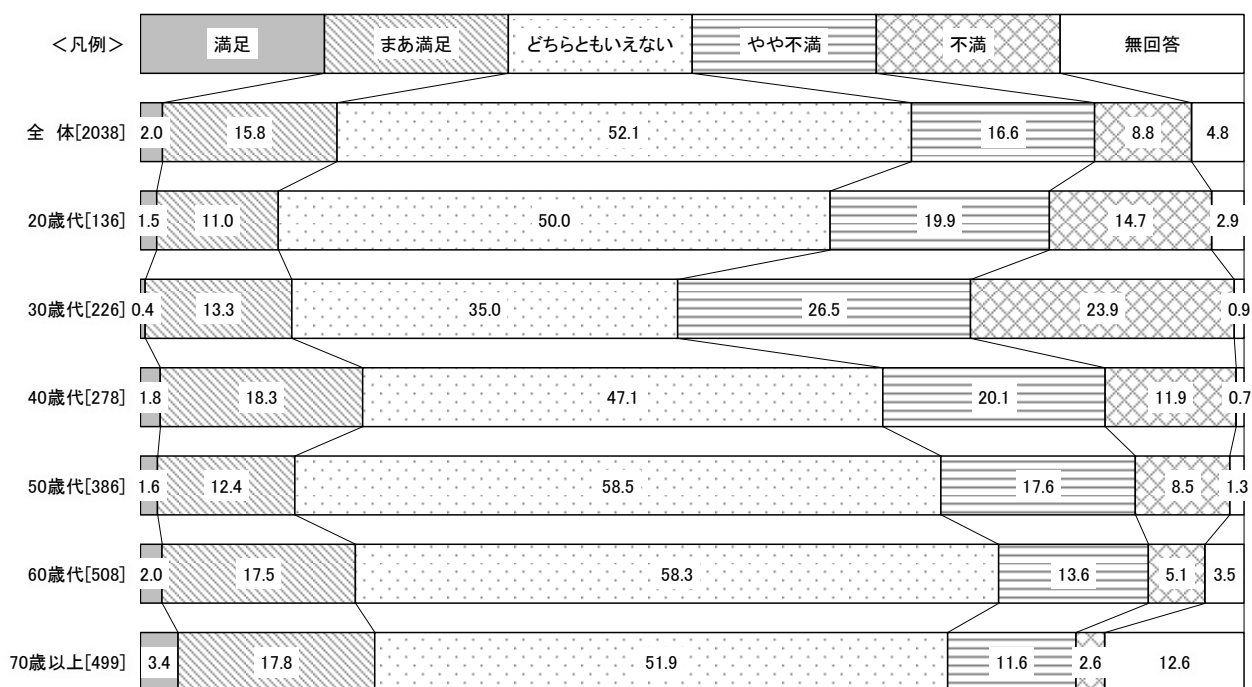
- 「満足」「まあ満足」の合計を見ると、「上下水道の整備」が 60.7%で最も高く、次いで「消防・救急・防災体制の整備」が 59.7%、「自然環境・景観の保全・活用」が 56.8%、「環境の保全・美化」が 45.6%、「街並み・住宅の整備」が 41.7%となっています。
- 一方、「不満」「やや不満」の合計（以下、「不満あり」と表記）が高い施策は、「雇用の場の創出」の 49.4%、「医療体制の充実」の 46.6%、「道路・公共交通網の整備」の 37.0%となっています。
- 年齢別の傾向を見ると、「子育て支援の充実」に関して、概ね子育て世代に該当する 30 歳代の不満度が特に高く、「不満あり」が 50.4%で、他の年代と 15 ポイント以上の差があります。

(単位:%)



[年齢別の傾向（子育て支援の充実）]

(単位: %)



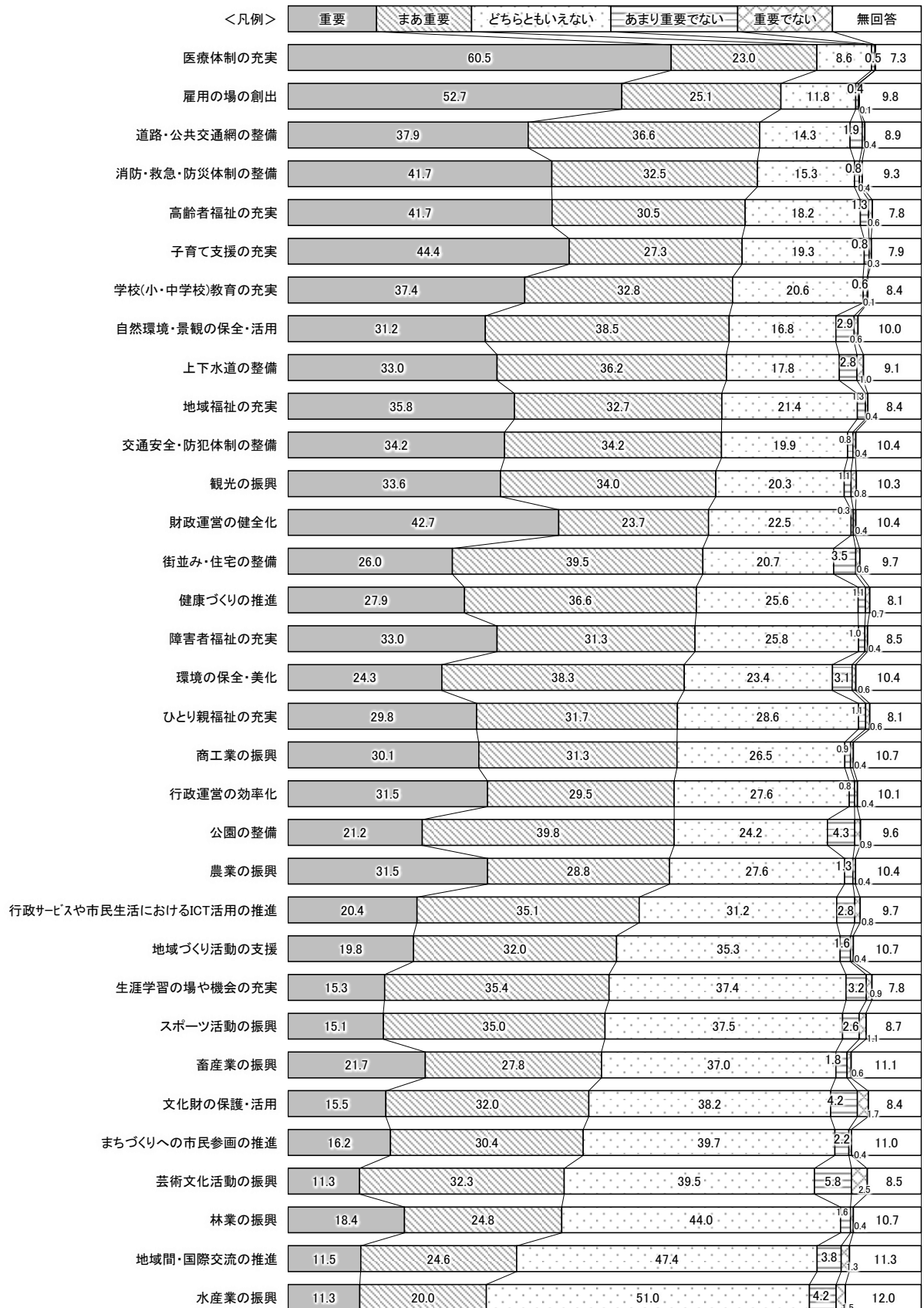
注) 全体[2038]には年齢無回答者5人を含みます

(2) 今後の重要度

問8-2) 十和田市が取り組んでいる以下の施策(基本的取組)に関して、今後の重要度をうかがいます。記入例にならって、次表に示した1~33の施策ごとに、日ごろの印象を含め、あなたご自身のお考えに最も近い番号を1つずつ選んで○をつけてください。

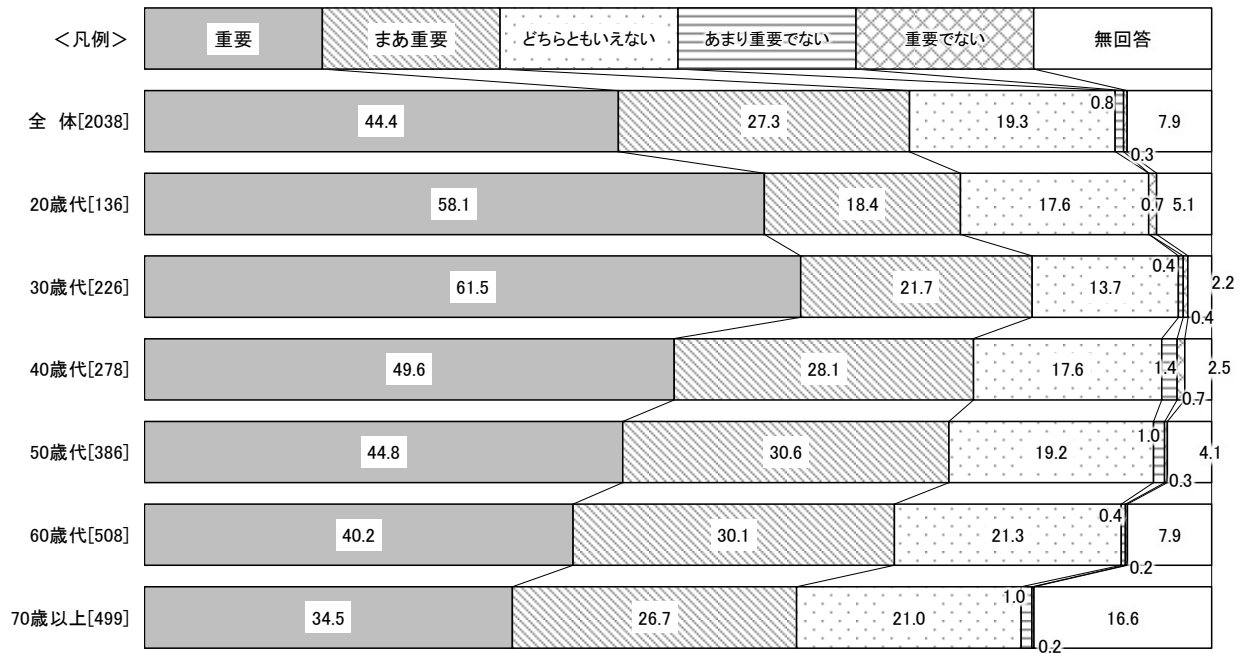
- 「重要」「まあ重要」の合計（以下、「より重要」と表記）を合わせた割合が高い施策は、「医療体制の充実」の83.5%、「雇用の場の創出」の77.8%となっています。
- 一方、「重要でない」「あまり重要でない」の合計は全体的に少なく、最も高いものは「芸術文化活動の振興」の8.3%となっています。
- 年齢別の傾向を見ると、子育て世代に該当する30歳代では、「子育て支援の充実」に関して、「より重要」が83.2%になっています。

(単位: %)



[年齢別の傾向（子育て支援の充実）]

(単位:%)



注)全体[2038]には年齢無回答者5人を含みます

(3) 満足度・重要度の分布

「(3)満足度・重要度の分布」では、満足度及び重要度の各選択肢に点数をつけて平均値を求め、満足度と重要度を数値化することにより、項目間の比較ができるようにしています。

<満足度・重要度の点数表>

「満足度」の 選択肢	点数 (点)	「重要度」の 選択肢	点数 (点)
満足	1.0	重要	1.0
まあ満足	0.5	まあ重要	0.5
どちらともいえない	0	どちらともいえない	0
やや不満	▲0.5	あまり重要でない	▲0.5
不満	▲1.0	重要でない	▲1.0
無回答	対象外	無回答	対象外

<算出式(加重平均)>

$$\text{満足度} = \frac{\text{「満足」} \times 1.0 + \text{「まあ満足」} \times 0.5 + \text{「どちらともいえない」} \times 0 + \text{「やや不満」} \times \blacktriangle 0.5 + \text{「不満」} \times \blacktriangle 1.0}{\text{「無回答」を除く回答者数}}$$

$$\text{重要度} = \frac{\text{「重要」} \times 1.0 + \text{「まあ重要」} \times 0.5 + \text{「どちらともいえない」} \times 0 + \text{「あまり重要でない」} \times \blacktriangle 0.5 + \text{「重要でない」} \times \blacktriangle 1.0}{\text{「無回答」を除く回答者数}}$$

(参考)「加重平均」とは？

例えば、次の場合はどちらの施策の満足度が高いでしょうか？

【施策①の回答状況】

「満足」5人、「まあ満足」3人、「どちらともいえない」4人、「やや不満」3人、「不満」5人

【施策②の回答状況】

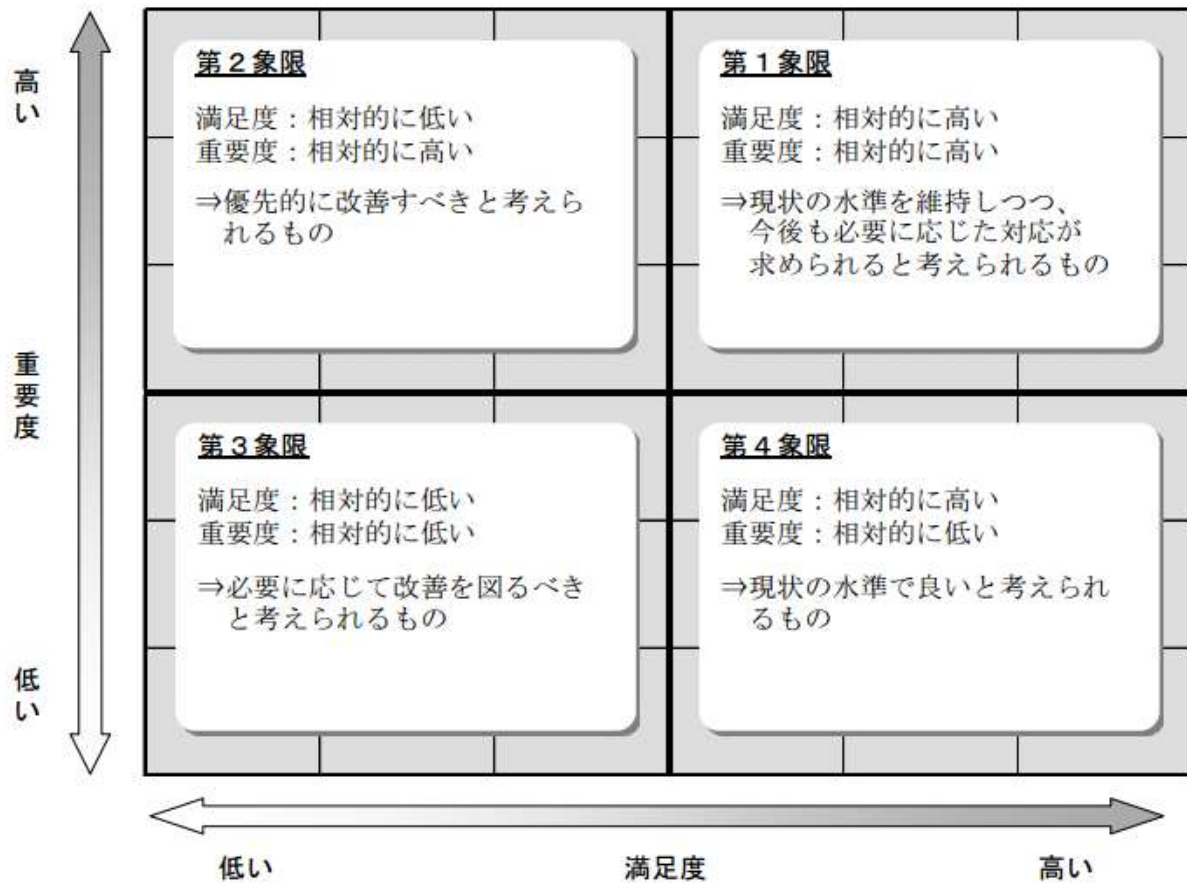
「満足」7人、「まあ満足」1人、「どちらともいえない」3人、「やや不満」1人、「不満」8人

⇒答え：施策①(加重平均を計算することで明らかになります)

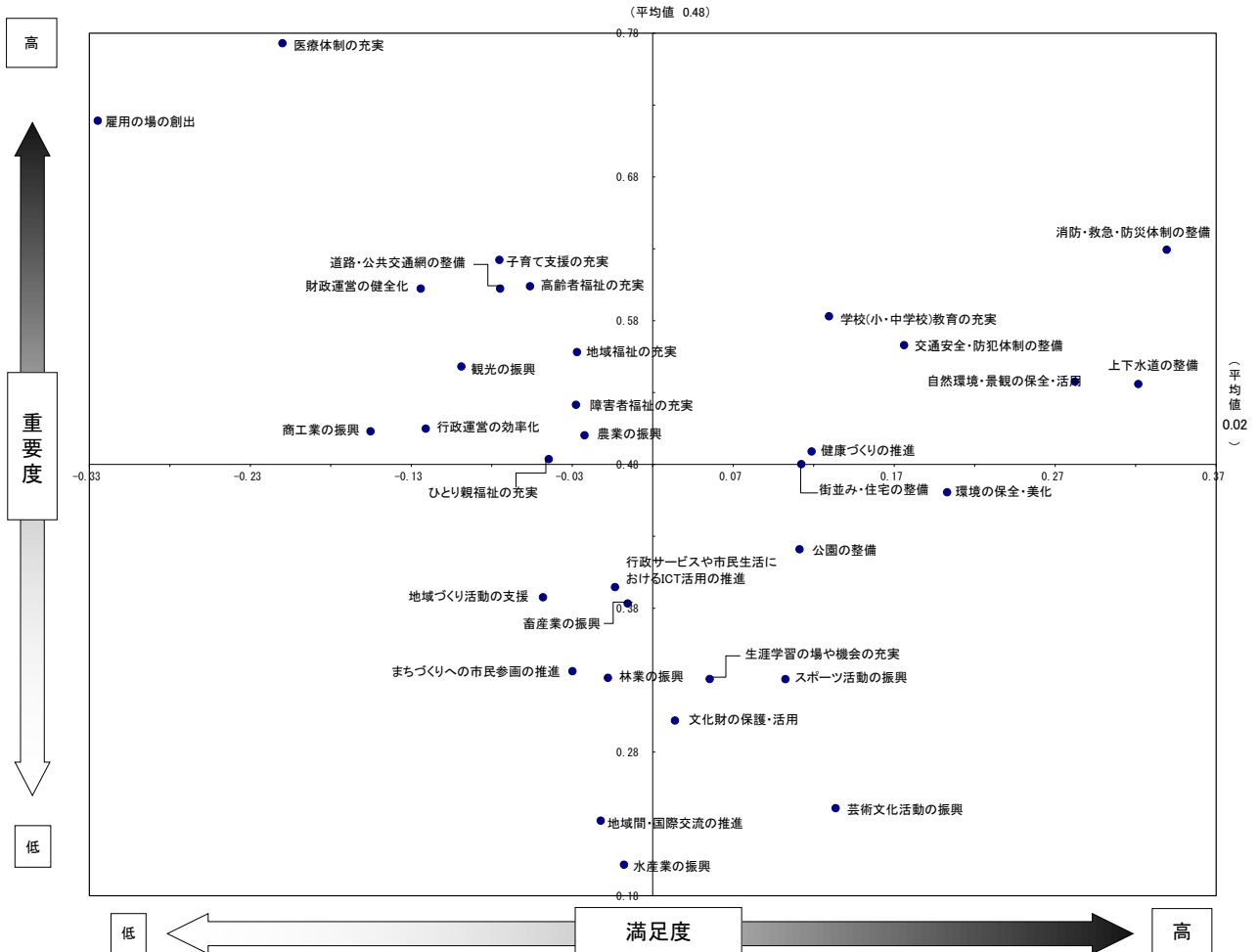
○施策①の満足度 = $5 \times 1.0 + 3 \times 0.5 + 4 \times 0 + 3 \times \blacktriangle 0.5 + 5 \times \blacktriangle 1.0 \div 20 = 0.00$

○施策②の満足度 = $7 \times 1.0 + 1 \times 0.5 + 3 \times 0 + 1 \times \blacktriangle 0.5 + 8 \times \blacktriangle 1.0 \div 20 = \blacktriangle 0.05$

加重平均値に基づく各取り組みの満足度を横軸、重要度を縦軸にとり、次の4象限に分類した結果を示します。



□ 「医療体制の充実」、「雇用の場の創出」は他と比較して著しく満足度が低くかつ重要度が高いため、優先的に改善すべきと考えられる施策です。また、「消防・救急・防災体制の整備」は他と比較して満足度及び重要度が高いため、現状の水準の維持が求められると考えられる施策です。



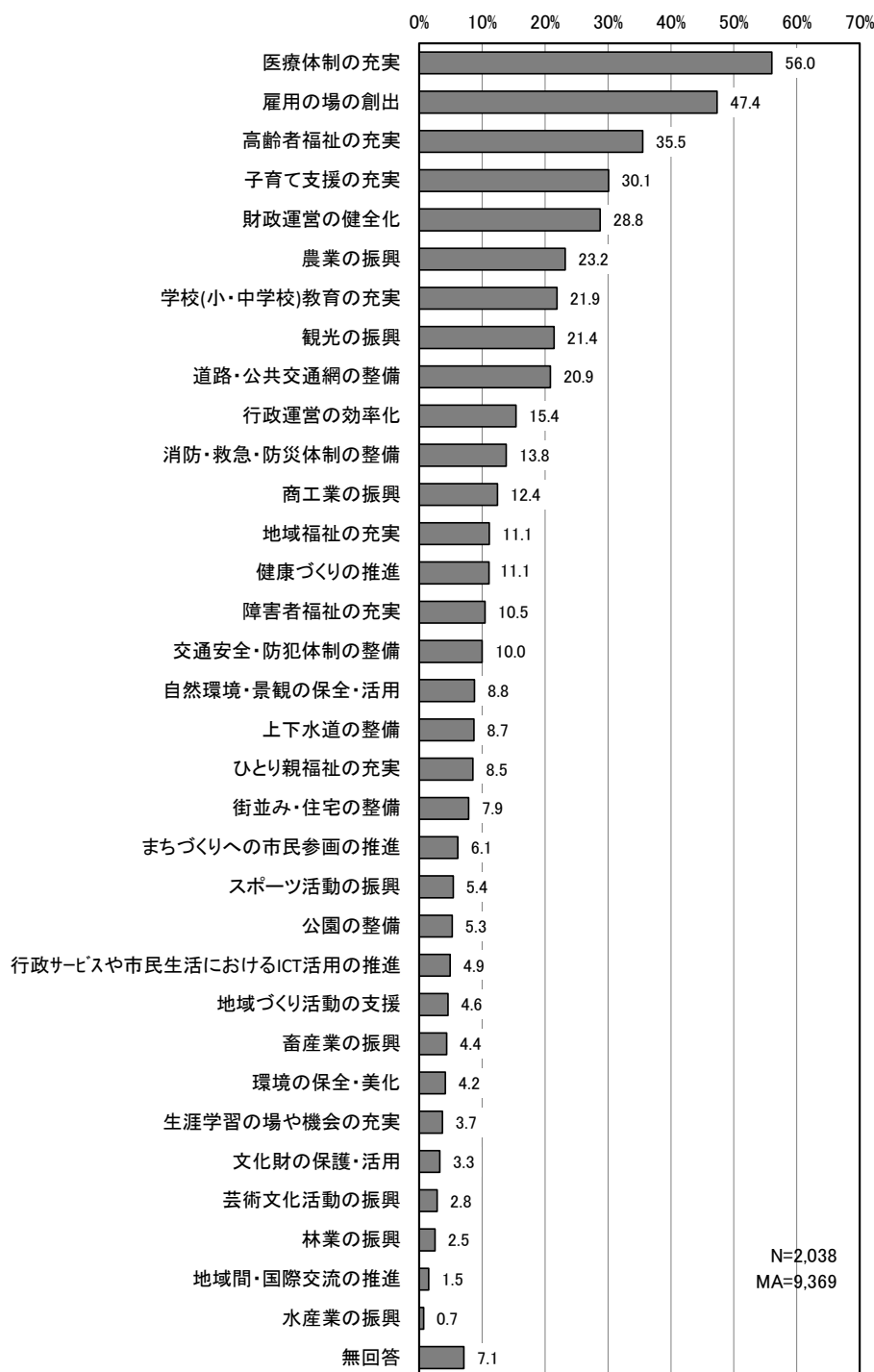
十和田市が取り組んでいる施策に関する満足度・重要度(加重平均)

施策	満足度	重要度	施策	満足度	重要度
自然環境・景観の保全・活用	0.28	0.54	障害者福祉の充実	▲ 0.03	0.52
街並み・住宅の整備	0.11	0.48	高齢者福祉の充実	▲ 0.06	0.60
公園の整備	0.11	0.42	ひとり親福祉の充実	▲ 0.04	0.48
上下水道の整備	0.32	0.54	消防・救急・防災体制の整備	0.34	0.63
環境の保全・美化	0.20	0.46	交通安全・防犯体制の整備	0.18	0.56
道路・公共交通網の整備	▲ 0.07	0.60	農業の振興	▲ 0.02	0.50
行政サービスや市民生活におけるICT(情報通信技術)活用の推進	▲ 0.00	0.39	畜産業の振興	0.00	0.38
生涯学習の場や機会の充実	0.06	0.33	林業の振興	▲ 0.01	0.33
学校(小・中学校)教育の充実	0.13	0.58	水産業の振興	0.00	0.20
芸術文化活動の振興	0.13	0.24	観光の振興	▲ 0.10	0.55
文化財の保護・活用	0.03	0.30	商工業の振興	▲ 0.16	0.50
スポーツ活動の振興	0.10	0.33	雇用の場の創出	▲ 0.05	0.72
健康づくりの推進	0.12	0.49	地域づくり活動の支援	▲ 0.03	0.39
医療体制の充実	▲ 0.21	0.77	まちづくりへの市民参画の推進	▲ 0.05	0.34
地域福祉の充実	▲ 0.03	0.56	地域間・国際交流の推進	▲ 0.01	0.23
子育て支援の充実	▲ 0.08	0.62	行政運営の効率化	▲ 0.12	0.50
			財政運営の健全化	▲ 0.12	0.60

(4) 優先すべき施策

問9)問8に掲げた1～33の施策の中から、今後、十和田市が最も優先して実施すべき施策を5つまで選び、下の回答欄にその番号を記入してください。

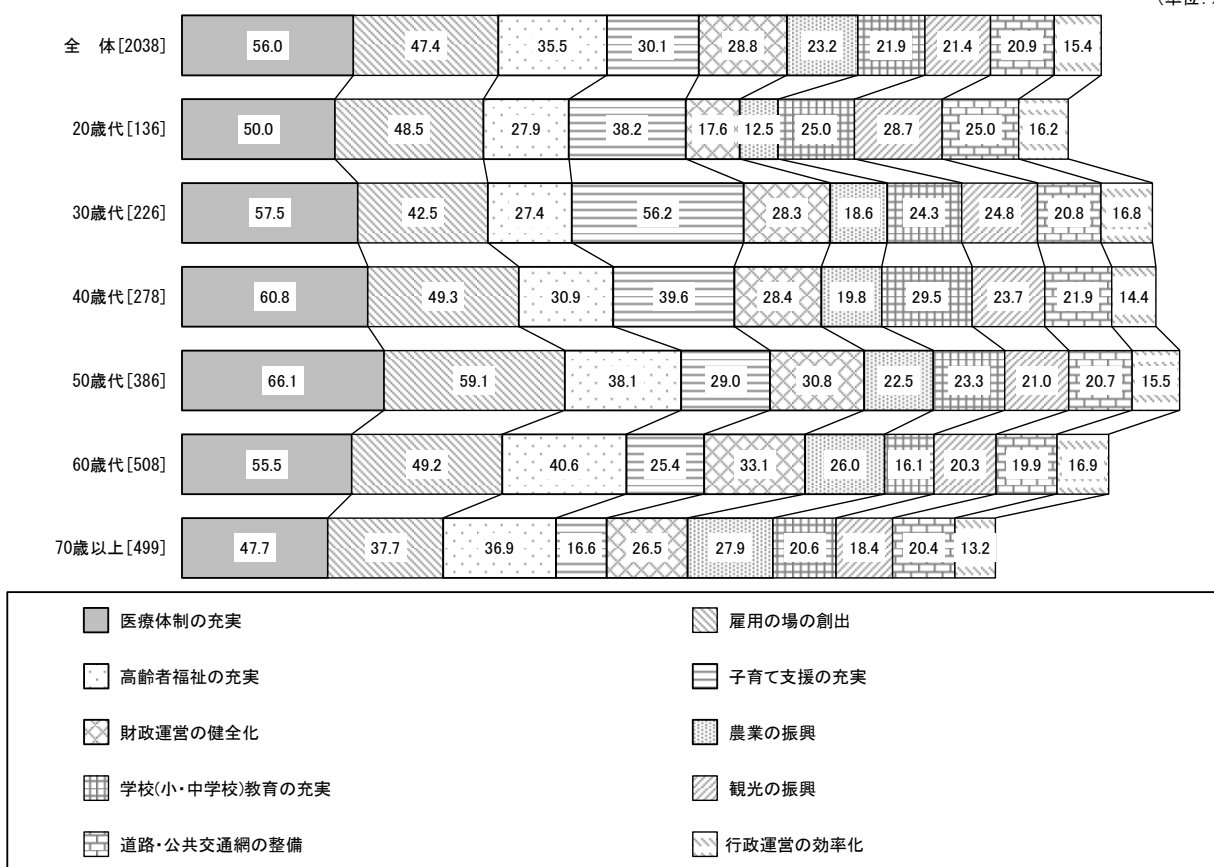
- 「医療体制の充実」が56.0%と最も多くなっています。
- これに次いで、「雇用の場の創出」が47.4%、「高齢者福祉の充実」が35.5%、「子育て支援の充実」が30.1%、「財政運営の健全化」が28.8%の順となっています。
- 年齢別の傾向を見ると、30歳代では「子育て支援の充実」が56.2%と最も高くなっています。



[年齢別の傾向（上位10施策）]

※複数回答のため全体および各年代の合計割合が異なります。

(単位:%)

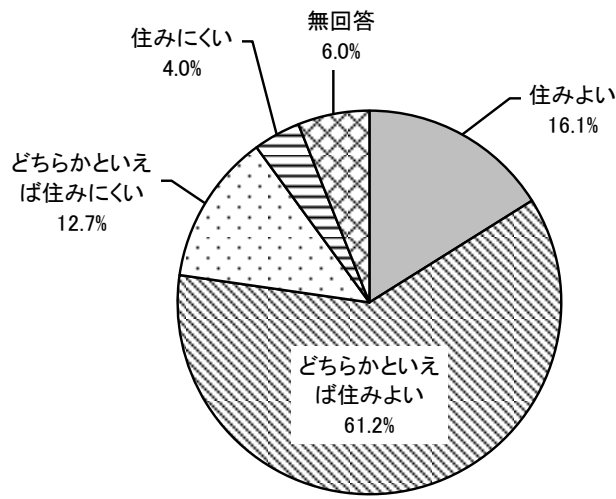


注) 全体[2038]には年齢無回答者5人を含みます

(5) 住みやすさ

問10) 問8を振り返り、総合的にみて十和田市は住みよいまちだと思いますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

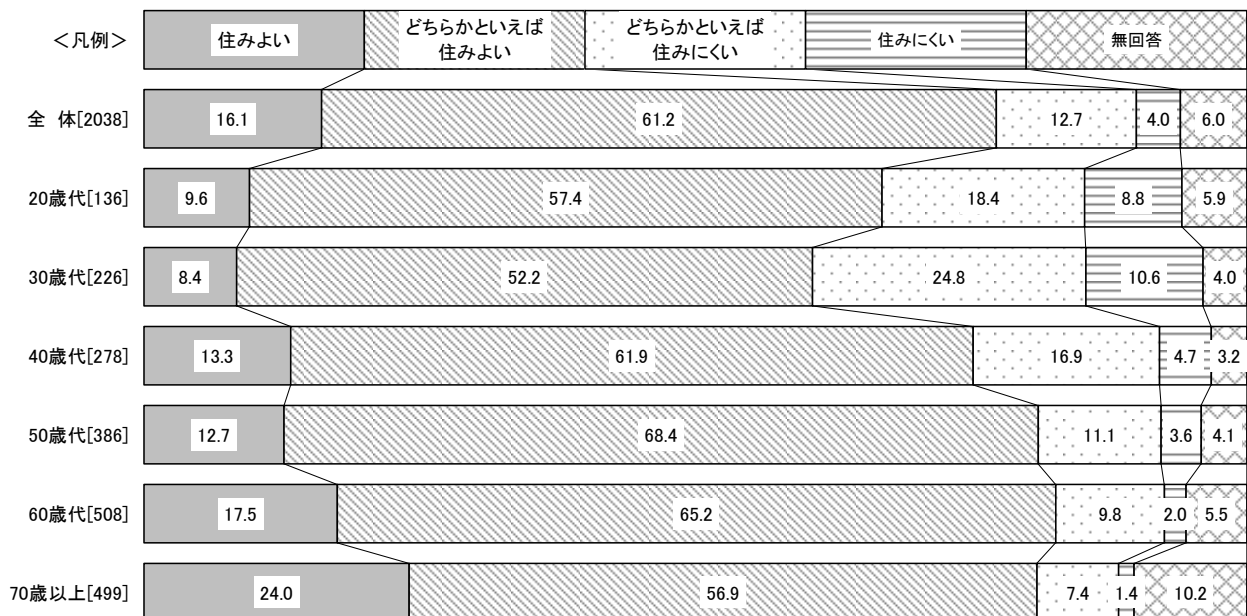
- 「住みよい」が16.1%、「どちらかといえば住みよい」が61.2%となっており、合わせて77.3%が住みよいまちだと感じています。一方、「住みにくい」が4.0%「どちらかといえば住みにくい」が12.7%となっており、16.7%が住みにくいまちだと感じています。
- 年齢別の傾向を見ると、30歳代では「住みにくい」が10.6%、「どちらかといえば住みにくい」が24.8%となっており、他の年代よりも住みにくさを感じている割合が高くなっています。
- 居住地別の傾向を見ると、旧十和田湖町地区在住者では「住みにくい」が4.6%、「どちらかと言うと住みにくい」が21.9%となっており、旧十和田市地区在住者よりも住みにくさを感じている割合が高くなっています。



N=2,038

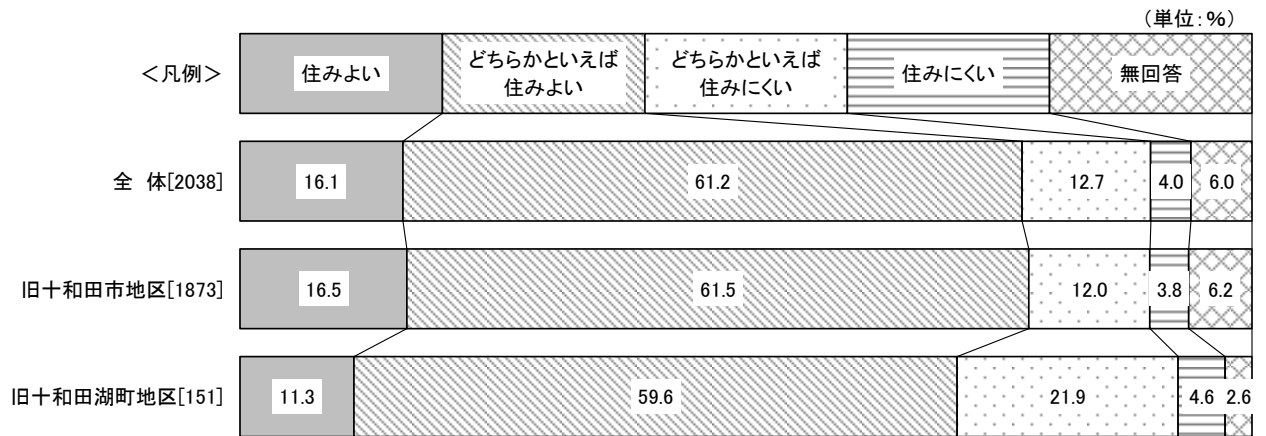
[年齢別の傾向]

(単位: %)



注) 全体[2038]には年齢無回答者5人を含みます

[居住地別の傾向]

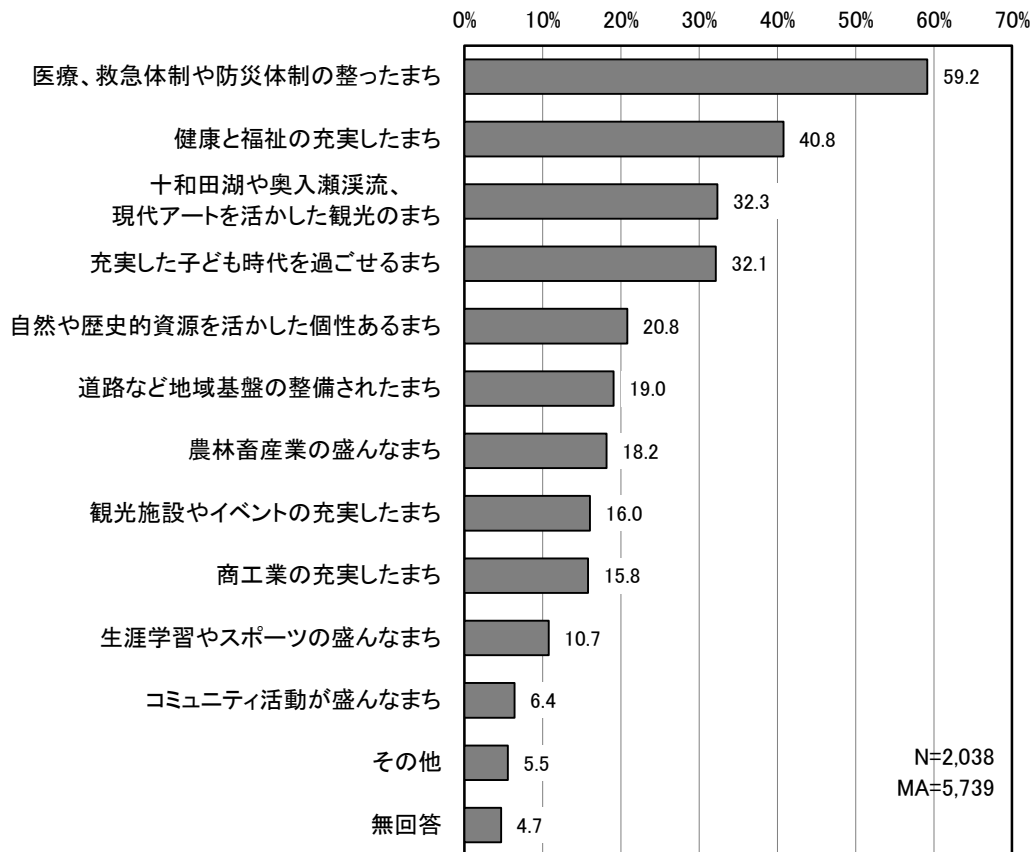


注)全体[2038]には居住地区無回答者14人を含みます

(6)めざすべきまちの姿

問11)あなたが考える、今後、十和田市が市全体としてめざすべきまちの姿について、次の中からあてはまる番号を3つまで選び○をつけてください。

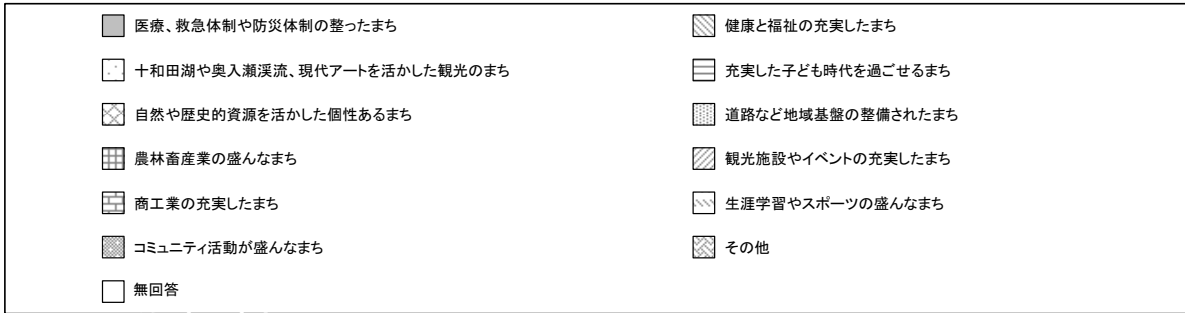
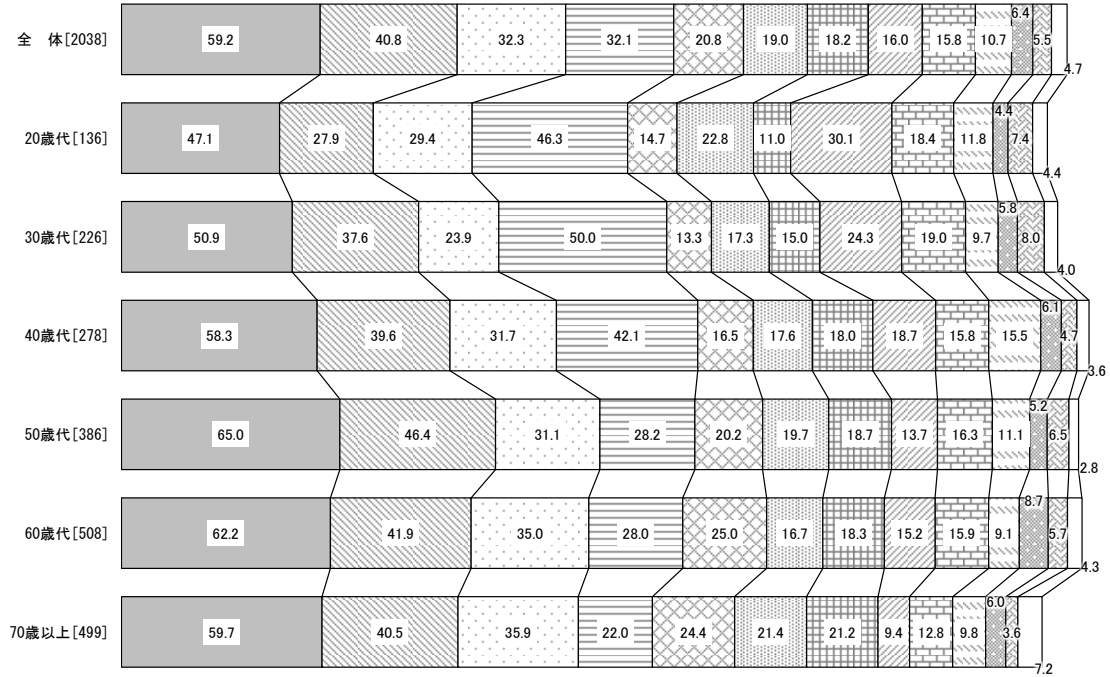
- 「医療、救急体制や防災体制の整ったまち」が 59.2%と最も多く、次いで「健康と福祉の充実したまち」の 40.8%、「十和田湖や奥入瀬溪流、現代アートを活かした観光のまち」の 32.3%、「充実した子ども時代を過ごせるまち」の 32.1%などとなっています。
- 「その他」の具体的な内容としては、(特に若者の)雇用創出に関するものが最も多く、その他には地域資源の活用、子育て支援、道路・公共交通の充実に関する意見が比較的多く寄せられています。
- 年齢別の傾向を見ると、20～40 歳代では「充実した子ども時代を過ごせるまち」、「観光施設やイベントの充実したまち」の割合が他の年代と比較して約 10 ポイント高くなっています。また、20 歳代から 50 歳代にかけて、年代が上がるにつれて「医療、救急体制や防災体制の整ったまち」の割合が高くなっています。
- 居住地別の傾向を見ると、旧十和田湖町地区在住者は、「十和田湖や奥入瀬溪流、現代アートを活かした観光のまち」が 48.3%、「農林畜産業の盛んなまち」が 28.5%で、旧十和田市地区在住者よりも、割合が高くなっています。



[年齢別の傾向]

※複数回答のため全体および各年代の合計割合が異なります。

(単位:%)

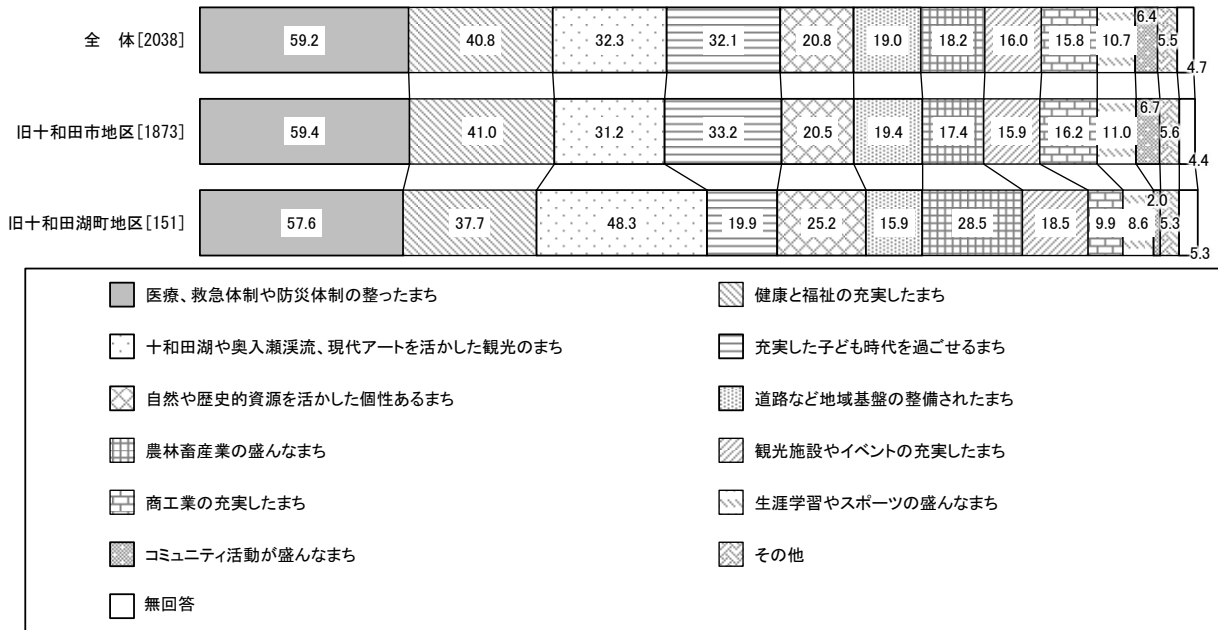


注)全体[2038]には年齢無回答者5人を含みます

[居住地別の傾向]

※複数回答のため全体および各居住地の合計割合が異なります。

(単位:%)



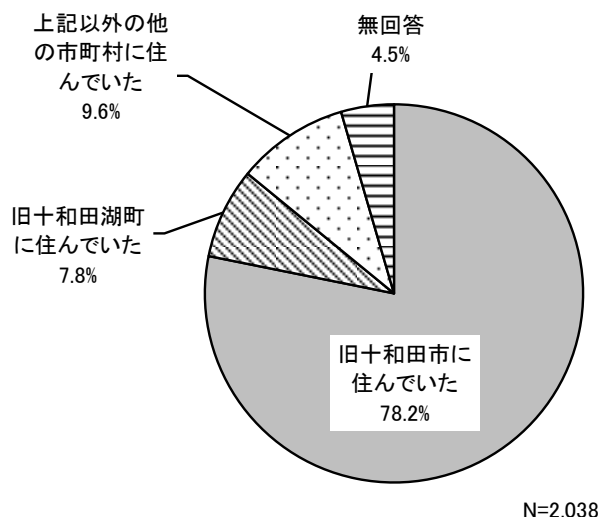
注)全体[2038]には居住地区無回答者14人を含みます

第4節 合併による効果等について

(1) 合併時の居住地

問12) 現在の十和田市は、平成17(2005)年1月1日に旧十和田市と旧十和田湖町が合併して誕生したまちです。あなたは、平成17年(2005)1月1日時点はどちらにお住まいでしたか。次の中から、あてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

- 「旧十和田市に住んでいた」が78.2%となっています。
- 一方、「旧十和田湖町に住んでいた」が7.8%、「上記以外の他の市町村に住んでいた」が9.6%となっています。

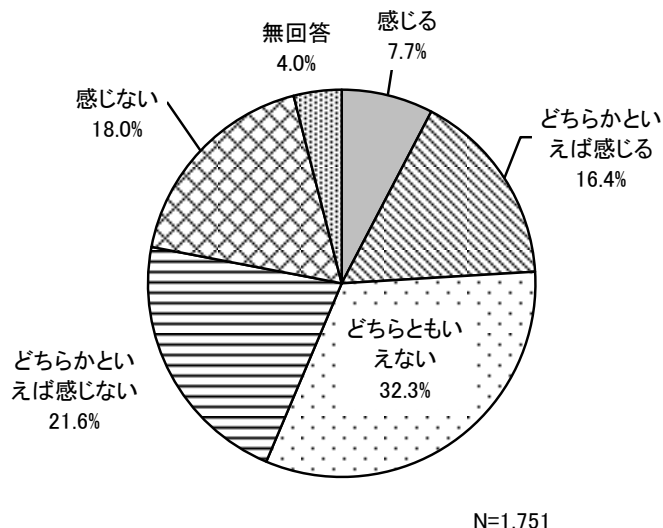


(2) 合併後の一体感

問12-1) あなたは、合併後、旧十和田市と旧十和田湖町との間で、1つのまちとしての一体感を感じていますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

(※問12「1. 旧十和田市に住んでいた」、または「2. 旧十和田湖町に住んでいた」の選択者のみ回答)

- 回答者の32.3%が「どちらともいえない」を選択していますが、「感じる」「どちらかといえば感じる」の合計が24.1%、「感じない」「どちらかといえば感じない」の合計が39.6%となっており、後者が多数派となっています。

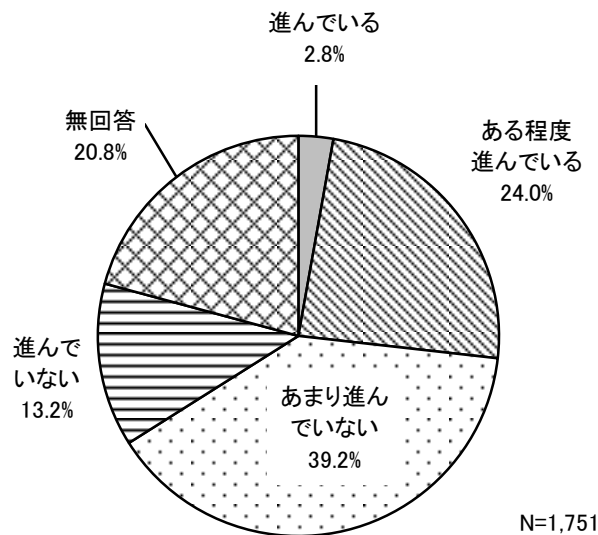


(3) 合併後のまちづくりの進み具合

問12-2)あなたは、合併後のまちづくりの進み具合について、どのように感じていますか。次の中から、あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

(※問12「1. 旧十和田市に住んでいた」、または「2. 旧十和田湖町に住んでいた」の選択者のみ回答)

- 「あまり進んでいない」が39.2%と最も多く、「進んでいない」の13.2%と合わせて52.4%がまちづくりは進んでいないと感じています。
- そのように思う理由としては、「何をどうしようとしているのか分からない」といった合併による変化がよく見えないことに関するものが最も多く、その他には地域・観光資源の活用に関するもの（「十和田湖の観光推進が以前とあまり変わらない」等）、産業振興に関するもの（「商店街の空き店舗が、徐々に増えてきている」等）、地域活動に関するもの（「イベントなどで協力体制が薄く感じる」等）、人口減少・高齢化への対応に関するもの（「人口の減少が進んでいる」等）などが一定程度寄せられています。
- 一方、「進んでいる」は2.8%、「ある程度進んでいる」は24.0%となっており、概ね進んでいると思う回答者は26.8%となっています。
- そのように思う理由としては、「十和田湖・奥入瀬溪流を大切にしていこうと取り組んでいる事が分かる」「十和田湖でのイベントが積極的にPRされるなどの部分で、十和田市としての取組みを感じている」といった地域・観光資源の活用に関するものが最も多く、その他には市民間の交流に関するもの（「旧十和田湖町民との交流の機会が増えた」等）、都市整備に関するもの（「上下水道整備が進められている」等）、といった産業振興に関するもの（「ろまんパーク、道の駅等の施設が充実している」等）、消極的な理由（「よく分からないが、進んでいると思う」等）などが一定程度寄せられています。



(4) 合併による効果

問12-3) あなたは、旧十和田市と旧十和田湖町の合併による効果について、現在、どのように感じていますか。記入例にならって、次表に示した1～10の項目ごとに、あなたご自身のお考えに最も近い番号を1つずつ選んで○をつけてください。

(※問12「1. 旧十和田市に住んでいた」、または「2. 旧十和田湖町に住んでいた」の選択者のみ回答)

- いずれの項目でも「わからない」が最多となっていますが、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計（以下、「より肯定的」と表記）が高い項目は、「まちの対外的な認知度やイメージが向上した」が30.3%、「十和田市民としての誇りやまちへの愛着が高まった」が24.2%、「十和田市で暮らしていくことに対する安心感や期待感が高まった」が23.2%となっており、好感度が向上したと感じている人が多いことがうかがえます。
- 一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計（以下、「より否定的」と表記）が高い項目は、「幹線道路などの都市基盤施設の整備が進み、生活の利便性が向上した」が33.1%、「両市町の住民同士のふれあいや交流の機会が増えた」が32.9%、「職員数や議員数の適正化などにより行財政運営が効率化した」が29.8%となっています。
- 居住地別の傾向を見ると、旧十和田湖町地区在住者は、「十和田市で暮らしていくことに対する安心感や期待感が高まった」が28.7%、「両市町の住民同士のふれあいや交流の機会が増えた」が23.8%で、全体に比べ、「より肯定的」の割合が高くなっています。
- 一方、「合併前に各市町にあった公共施設が利用しやすくなった」、「各種の行政サービスを利用するための手続きが便利になった」、「幹線道路などの都市基盤施設の整備が進み、生活の利便性が向上した」といった項目では「より否定的」の割合が高くなっています。

N=2,038 (単位:%)

<凡例>	回答割合 (%)					
	そう思う	どちらかといえばそう思う	わからない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
まちの対外的な認知度やイメージが向上した	7.7	22.6	39.7	12.1	11.4	6.5
十和田市民としての誇りやまちへの愛着が高まった	4.4	19.8	42.6	14.8	12.3	6.0
十和田市で暮らしていくことに対する安心感や期待感が高まった	4.2	19.0	41.5	15.9	13.8	5.6
両市町の強みを活かしたまちづくりを広域的に推進できるようになった	3.1	16.2	45.3	17.4	11.7	6.3
幹線道路などの都市基盤施設の整備が進み、生活の利便性が向上した	3.3	14.8	42.9	19.5	13.6	5.9
両市町の住民同士のふれあいや交流の機会が増えた	3.7	14.0	43.6	18.6	14.3	5.8
合併前に各市町にあった公共施設が利用しやすくなった	2.5	12.7	51.5	14.2	13.2	6.0
各種の行政サービスを利用するための手続きが便利になった	2.9	10.6	52.9	14.1	13.2	6.2
職員数や議員数の適正化などにより行財政運営が効率化した	2.1	10.2	52.0	13.6	16.2	5.9
行財政基盤が強化され、合併前には難しかった大規模な事業を実施できるようになった	2.0	8.1	58.9	13.0	12.1	5.9

[居住地別の傾向（旧十和田市地区在住者）]

N=151 (単位:%)

<凡例>	そう思う	どちらかといえば そう思う	わからない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	無回答
まちの対外的な認知度や イメージが向上した	7.8	23.3	39.2	12.1	11.2	6.5
十和田市民としての誇りや まちへの愛着が高まった	4.4	19.9	42.8	14.6	12.1	6.1
十和田市で暮らしていくことに対する 安心感や期待感が高まった	4.2	18.5	42.3	15.8	13.5	5.6
両市町の強みを活かしたまちづくりを 広域的に推進できるようになった	3.4	16.3	45.5	17.6	10.9	6.4
幹線道路などの都市基盤施設の整備が 進み、生活の利便性が向上した	3.4	14.6	43.8	19.0	13.2	5.9
両市町の住民同士のふれあいや 交流の機会が増えた	3.6	13.5	44.3	18.8	14.1	5.8
合併前に各市町にあった公共施設が 利用しやすくなった	2.5	12.6	53.2	13.8	11.9	6.0
各種の行政サービスを利用する ための手続きが便利になった	2.9	10.0	54.9	13.6	12.4	6.2
職員数や議員数の適正化などにより 行財政運営が効率化した	2.0	10.3	52.7	13.1	16.1	5.8
行財政基盤が強化され、合併前には難しかった 大規模な事業を実施できるようになった	1.9	8.3	59.6	12.4	11.8	5.9

[居住地別の傾向（旧十和田湖町地区在住者）]

N=1,599 (単位:%)

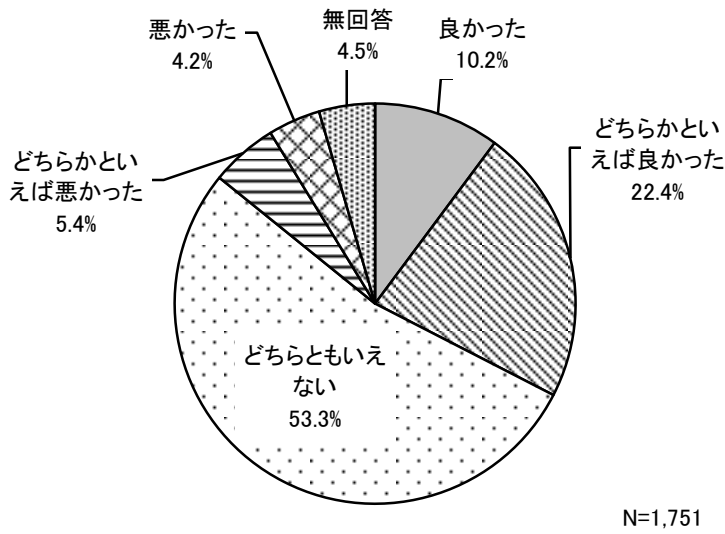
<凡例>	そう思う	どちらかといえば そう思う	わからない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	無回答
十和田市で暮らしていくことに対する 安心感や期待感が高まった	4.2	24.5	33.6	16.8	16.1	4.9
両市町の住民同士のふれあいや 交流の機会が増えた	3.5	20.3	35.7	18.2	17.5	4.9
まちの対外的な認知度や イメージが向上した	7.0	16.1	43.4	13.3	14.0	6.3
十和田市民としての誇りや まちへの愛着が高まった	4.2	17.5	41.3	18.2	14.0	4.9
各種の行政サービスを利用する ための手続きが便利になった	3.5	17.5	30.8	20.3	22.4	5.6
幹線道路などの都市基盤施設の整備が 進み、生活の利便性が向上した	2.1	16.8	32.9	25.2	18.9	4.2
両市町の強みを活かしたまちづくりを 広域的に推進できるようになった	0.7	15.4	43.4	16.1	19.6	4.9
合併前に各市町にあった公共施設が 利用しやすくなった	2.1	13.3	32.2	20.3	27.3	4.9
職員数や議員数の適正化などにより 行財政運営が効率化した	2.8	9.1	46.2	19.6	16.8	5.6
行財政基盤が強化され、合併前には難しかった 大規模な事業を実施できるようになった	2.8	7.0	51.7	18.9	14.7	4.9

(5) 合併してよかったかどうか

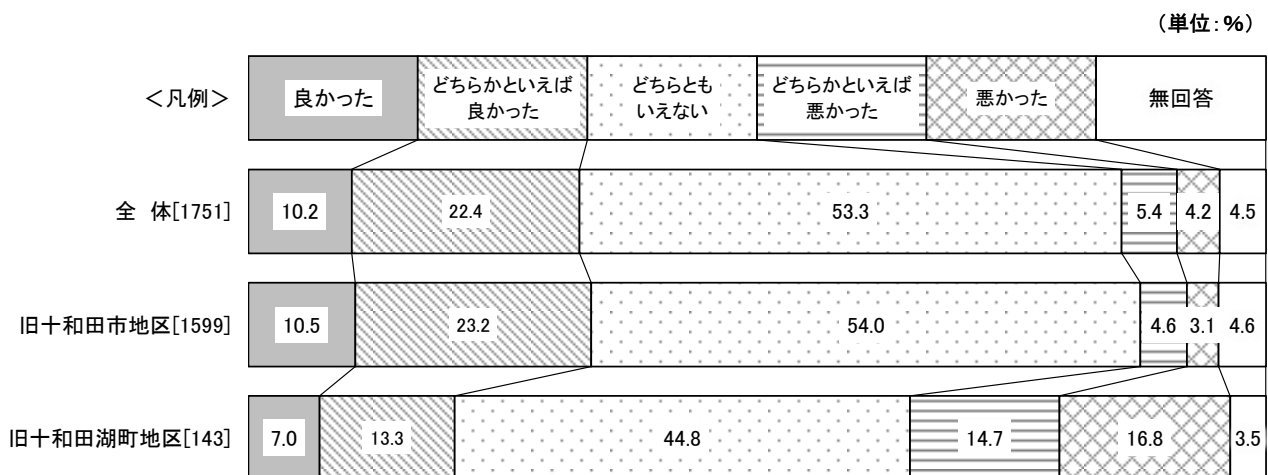
問12-4) あなたは、旧十和田市と旧十和田湖町が合併してよかったと感じていますか。次の中から、あてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

(※問12「1. 旧十和田市に住んでいた」、または「2. 旧十和田湖町に住んでいた」の選択者のみ回答)

- 「どちらともいえない」が 53.3%となっていますが、「良かった」「どちらかといえば良かった」の合計が 32.6%、「悪かった」「どちらかといえば悪かった」の合計が 9.6%となっており、前者の方が多数派となっています。
- 居住地別の傾向を見ると、旧十和田湖町地区在住者では、「悪かった」が 16.8%、「どちらかといえば悪かった」が 14.7%となっており、旧十和田市地区在住者よりも合併して悪かったと感じる割合が高くなっています。



[居住地別の傾向]



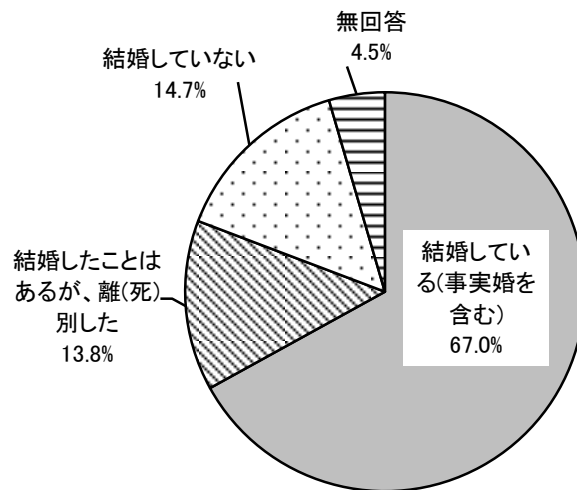
注) 全体[1751]には居住地無回答者9人を含みます

第5節 結婚について

(1) 配偶状況

問13) 現在、あなたは結婚していますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

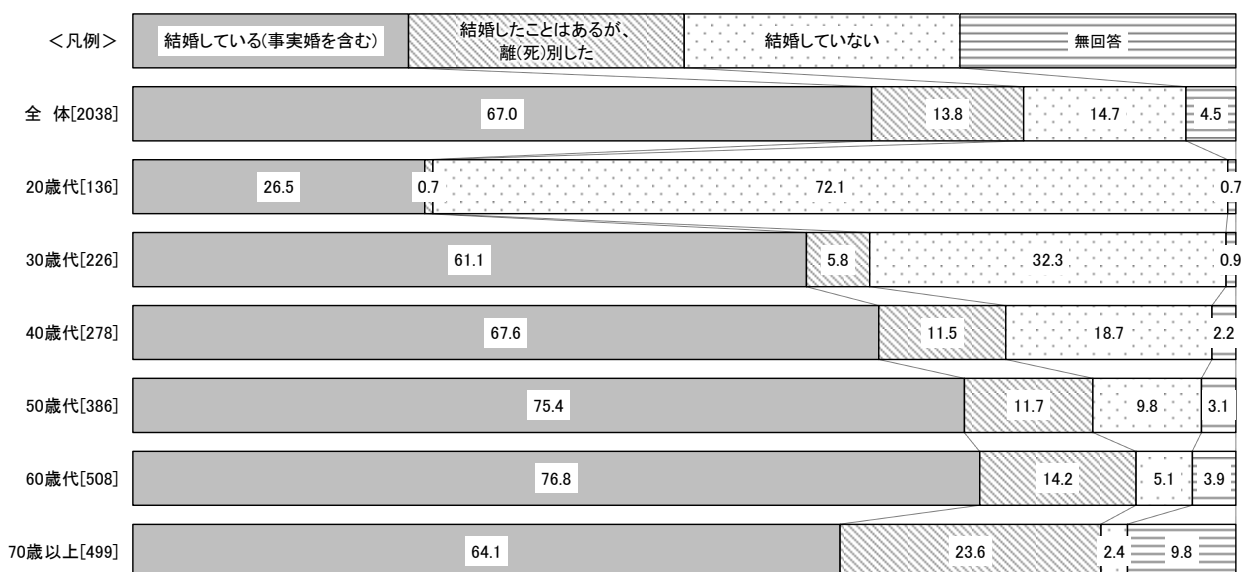
- 「結婚している」が 67.0%となっています。一方、「結婚していない」は 14.7%、「結婚したことはあるが、離(死)別した」は 13.8%となっており、回答者の 28.5%が現在結婚していない状況となっています。
- 年齢別の傾向をみると、20 歳代では「結婚している(事実婚を含む)」は 26.5%ですが、30 歳代では 61.1%に増加しており、30 歳代で結婚する割合が高いことがうかがえます。
- 男女別の傾向を見ると、現在結婚している割合は、同じ 20 歳代でも、女性の 32.9%が男性の 18.3%に比べて高くなっています。30 歳代ではその傾向が更に顕著になり、女性が 71.2%、男性が 48.5%となっており、男女間の差は約 20 ポイントとより広がっています。



N=2,038

[年齢別の傾向]

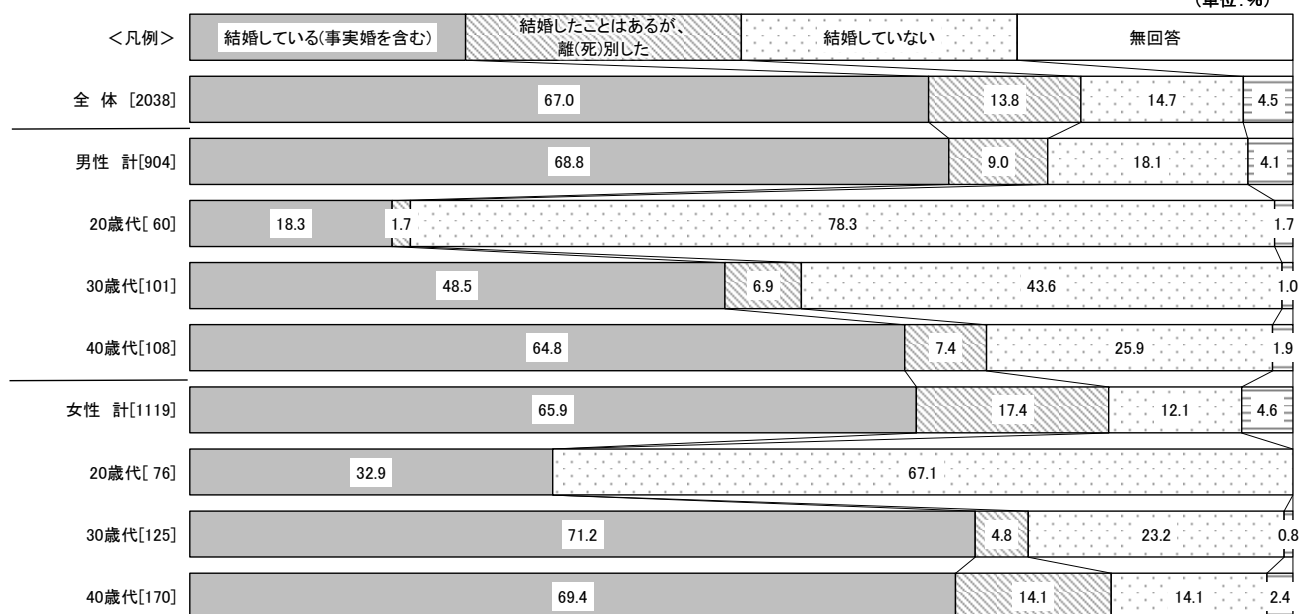
(単位:%)



注)全体[2038]には年齢無回答[5]を含みます

[男女別・年齢別の傾向]

(単位:%)



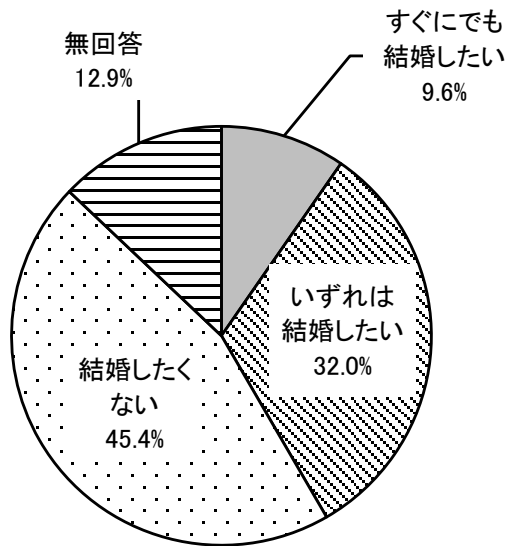
注)全体[2038]には性別無回答者15人を含みます

(2) 結婚に対する意思

問13-1) 今後、結婚したいと思いますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

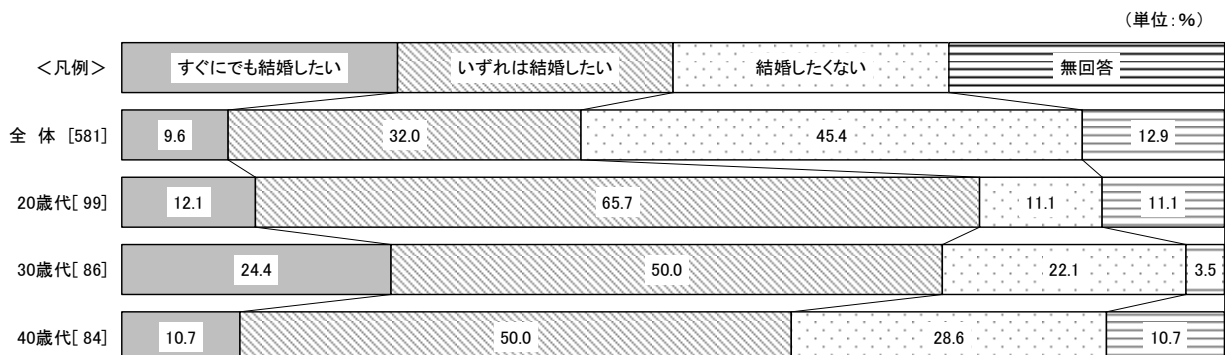
(※問13「2. 結婚したことはあるが、離(死)別した」、または「3. 結婚していない」の選択者のみ回答)

- 「結婚したくない」が45.4%と最も多いものの、「いずれは結婚したい」が32.0%、「すぐにでも結婚したい」が9.6%であり、結婚願望の割合は拮抗しています。
- 年齢別の傾向を見ると、「すぐにでも結婚したい」の割合は、20歳代の12.1%から30歳代の24.4%と急増していますが、40歳代では10.7%となっています。一方、「結婚したくない」の割合は、20歳代では11.1%ですが、年代が上がるにつれて増加しています。
- 男女別の傾向を見ると、30～40歳代では、男性は「いずれは結婚したい」の割合が女性よりも高くなっていますが、女性は「結婚したくない」の割合が高く、特に40歳代では男性よりも約20ポイント高くなっています。



N=581

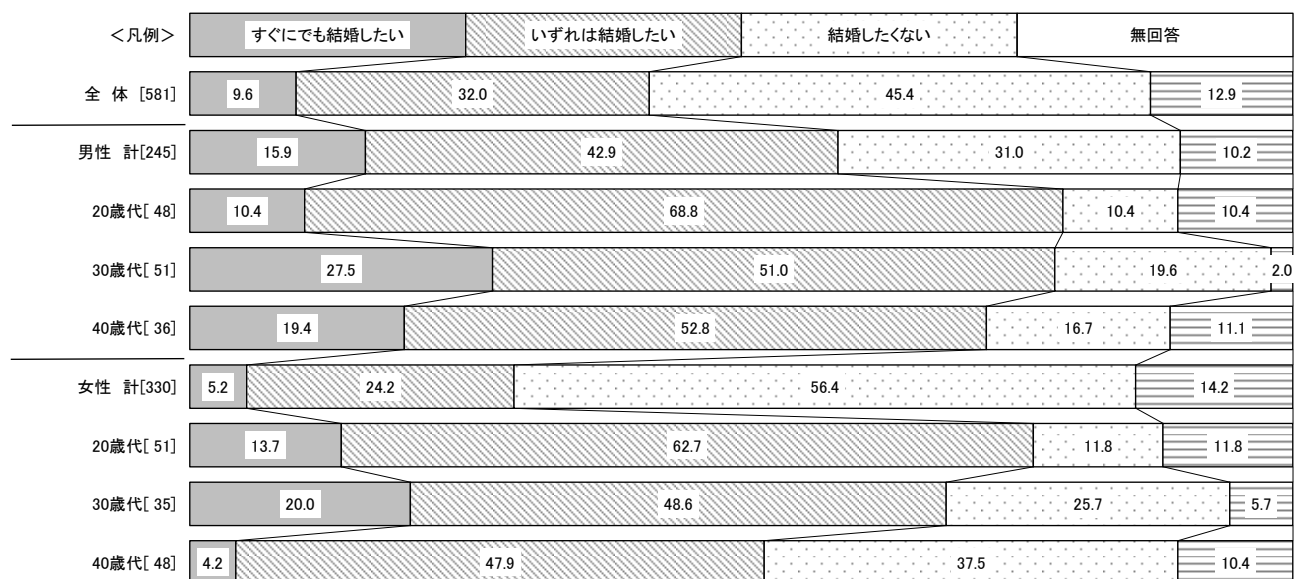
[年齢別の傾向]



注) 全体[581]には性別無回答者6人を含みます。

[男女別・年齢別の傾向]

(単位: %)



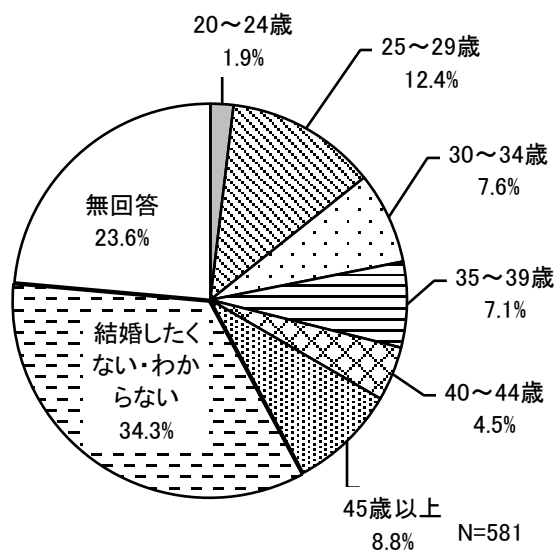
注) 全体[581]には性別無回答者6人を含みます。

(3) 結婚したい年齢

問13-2) あなたが結婚したいと思う年齢について、次の中からあてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

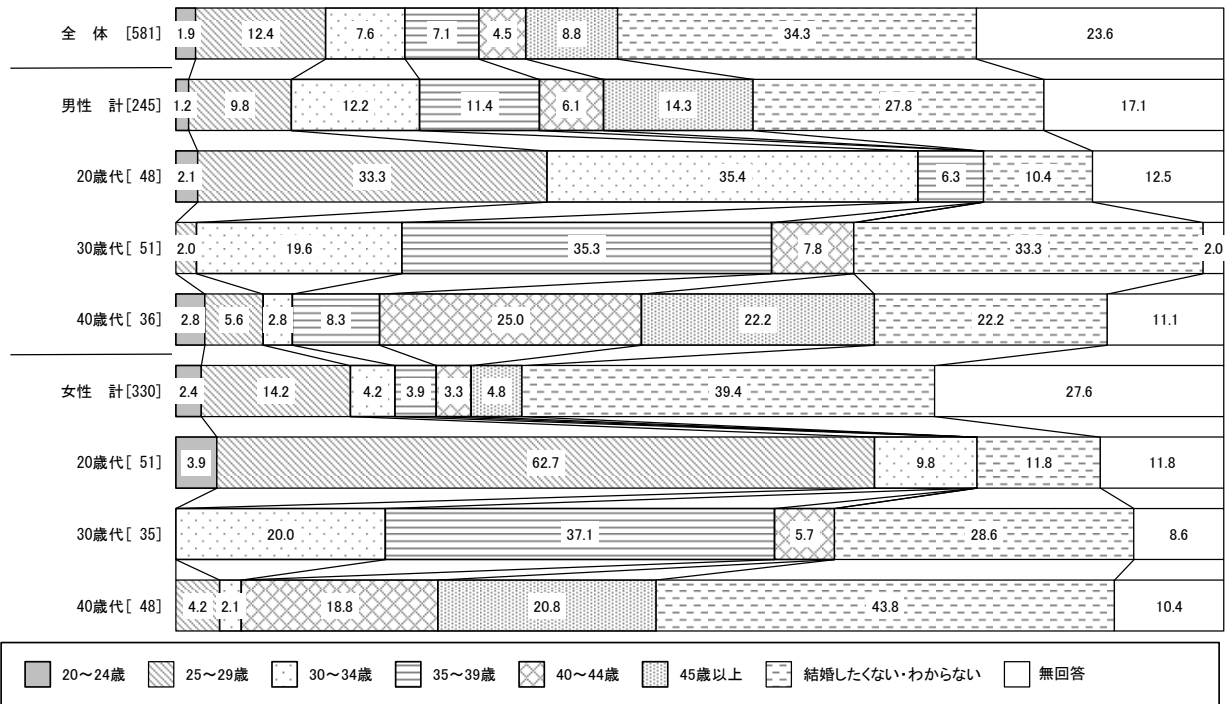
(※問13「2. 結婚したことはあるが、離(死)別した」、または「3. 結婚していない」の選択者のみ回答)

- 結婚したいと思う年齢は、多い順に「25～29歳」が12.4%、「45歳以上」が8.8%、「30～34歳」が7.6%などとなっています。一方、34.3%が「結婚したくない・わからない」と回答しています。
- 男女別の傾向を見ると、20歳代女性では「25～29歳」が62.7%となっており、男性よりも約30ポイント高くなっています。
- 一方、40歳代男性では「40～44歳」が25.0%と女性よりやや高くなっており、同世代でも男性は遅め、女性は早めの年齢で結婚を希望する傾向があります。



[男女別・年齢別の傾向]

(単位:%)



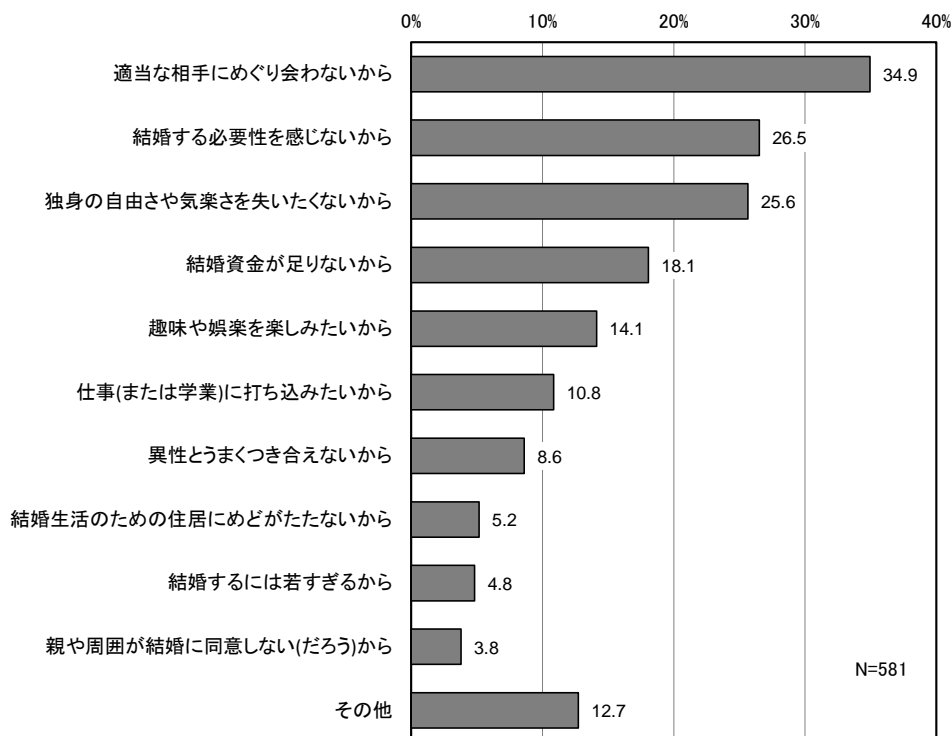
注) 全体[581]には性別無回答6人を含みます。

(4)結婚をしていない理由・したくない理由

問13-3)結婚していない、または結婚したくない理由について、うかがいます。あなたご自身に最もあてはまると思われる理由を、左側の1～11の中から3つまで選び、右側の回答欄にその番号を記入してください。

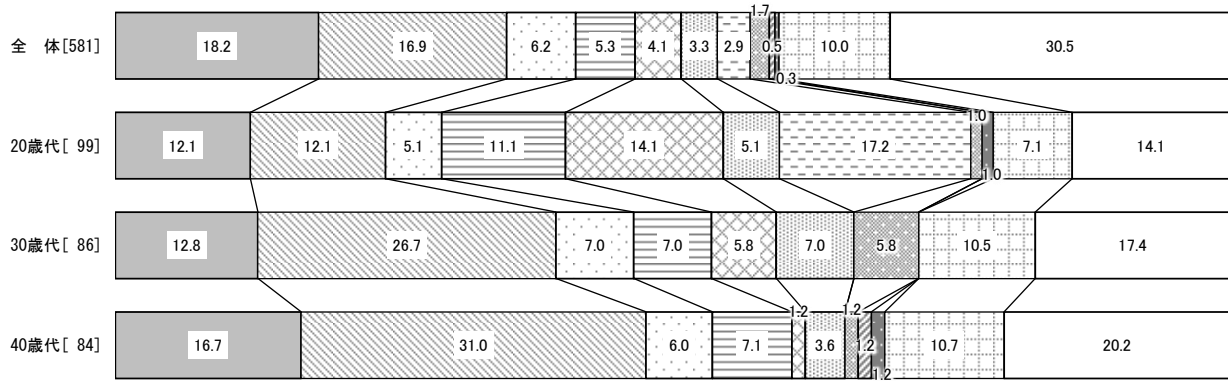
(※問13「2. 結婚したことはあるが、離(死)別した」、または「3. 結婚していない」の選択者のみ回答)

- 3つまで選択する中では、「適当な相手にめぐり会わないから」が34.9%と最も多く、次いで、「結婚する必要性を感じないから」が26.5%、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」が25.6%、「結婚資金が足りないから」が18.1%などとなっています。
- ただし、最大の理由としては「結婚する必要性を感じないから」が18.2%で最も多く、「適当な相手にめぐり会わないから」の16.9%をわずかに上回っています。
- 年齢別に最大の理由の傾向を見ると、20歳代では「結婚するには若すぎるから」が17.2%と最も高くなっています。一方、30～40歳代では「適当な相手にめぐり会わないから」の割合が最も高くなっています。
- 「その他」の理由として、特に20～30歳代に限定して見ると、「定職についていないから」、「子どもの気持ちを尊重したい」(配偶者と離別した方)、「子供を育てる事に自信がない」、「持病がある」といった理由が寄せられています。



[年齢別の傾向（最大の理由）]

(単位:%)



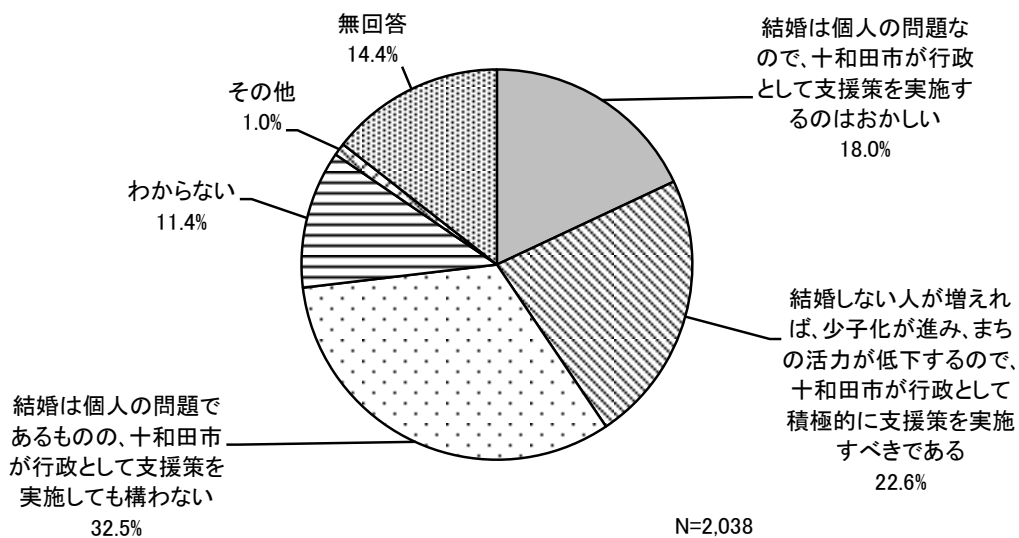
- 結婚する必要を感じないから
- 適当な相手にめぐり会わないから
- 独身の自由さや気楽さを失いたくないから
- 結婚資金が足りないから
- 仕事(または学業)に打ち込みたいから
- 趣味や娯楽を楽しみたいから
- 結婚するには若すぎるから
- 異性とうまくつき合えないから
- 親や周囲が結婚に同意しない(だろう)から
- 結婚生活のための住居にめどがたないから
- その他
- 無回答

注) 全体[581]には年代無回答1人を含みます。

(5) 市の結婚支援の実施について

問14)より多くの人々が結婚する機会を増やすため、十和田市が行政として何らかの支援策を実施することについて、どのように思いますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

- 「結婚は個人の問題であるものの、十和田市が行政として支援策を実施しても構わない」が 32.5%で最も多く、これに次ぐ「結婚しない人が増えれば、少子化が進み、まちの活力が低下するので、十和田市が行政として積極的に支援策を実施すべきである」の 22.6%と合わせて、55.1%が肯定的となっています。
- 一方、「結婚は個人の問題なので、十和田市が行政として支援策を実施するのはおかしい」は 18.0%となっています。
- 「その他」の意見としては、「民間に任せるべき」、「もっと他のことをすべき」といった意見が寄せられています。



(6) 具体的な結婚支援策について

問14-1) 十和田市が行政として実施する支援策について、どのような支援があればよい(あったらよかった)と思いますか。具体的な支援策の内容を記入してください。

(※問14で「2. 結婚しない人が増えれば、少子化が進み、まちの活力が低下するので、十和田市が行政として積極的に支援策を実施すべきである」、または「3. 結婚は個人の問題であるものの、十和田市が行政として支援策を実施しても構わない」の選択者のみ回答)

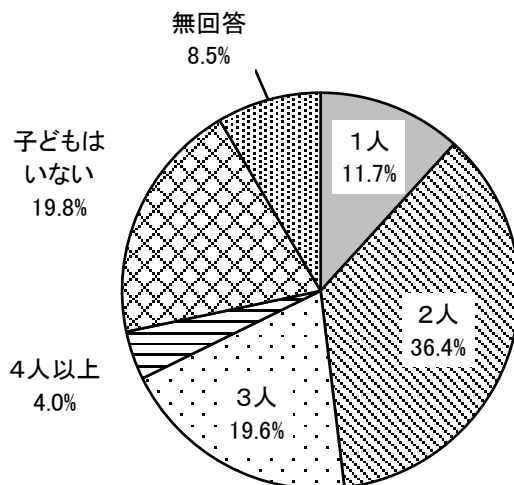
- 特に 20～40 歳代に限定して見ると、「婚活パーティーのような市全体でのイベントを実施したらと思う」「男女が出会えるイベントをする」「市内だけではなく近隣市町村と協力して人を集めて、男女が出会う場を提供する」といった、出会いの場の創出・提供に関する内容が大半を占めています。
- 上記以外の支援策としては、次のような意見が寄せられています。
 - 結婚に関する助言・相談支援に関するもの（「結婚への不安・悩み等を相談できる無料相談等があれば良いと思う」、「相談所やアドバイスの場を設ける」等）
 - 結婚に対する経済的支援に関するもの（「市内の人同士で結婚したら、お祝い金をあげる」「結婚費用の助成」等）
 - 出産環境の充実・支援に関するもの（「産科・婦人科の充実」「出産・育児への支援」等）
 - 子育て支援に関するもの（「子育てをしながら、仕事をしやすい環境づくりが必要だと思う」、「結婚後の生活に不安を感じる人が多いと思うので、子育てに関する補助等を増やす」等）
 - 定住促進策に関するもの（「魅力あるまちづくりを進め、若者が戻ってくる、人が十和田にいたくなるような素地を作るべき」等）
 - 雇用創出策に関するもの（「働く場を作ることで、安定した生活基盤を築くことができる」等）

第6節 出産について

(1) 現在の子どもの数

問15) 現在、あなたには、何人のお子さんがいますか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

- 「2人」が36.4%で最も多く、次いで「3人」が19.6%、「1人」が11.7%、「4人以上」が4.0%となっています。「子どもはいない」という回答者は19.8%となっています。

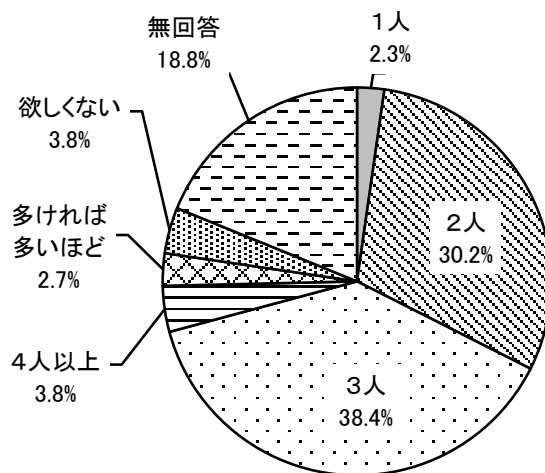


N=2,038

(2) 理想の子どもの数

問16) あなたが、できれば持ちたい“理想”の子どもの数は何人ですか。次の中からあてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください。

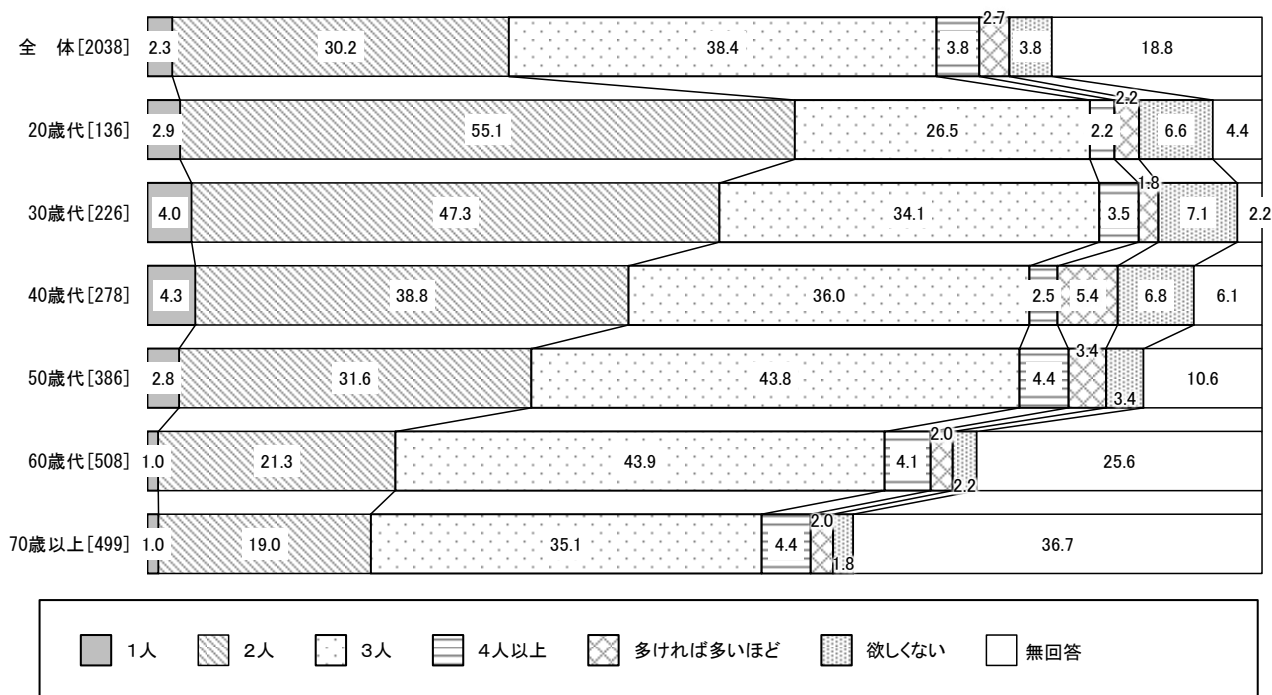
- 「3人」が38.4%で最も多く、次いで「2人」が30.2%、「4人以上」が3.8%、「多ければ多いほど」が2.7%となっています。一方、「欲しくない」は3.8%となっています。
- 年齢別の傾向を見ると、70歳代を除き年代が上がるほど「3人」の割合が増え、40歳代の割合は20歳代よりも約10ポイント高くなっています。一方、年代が上がるほど「2人」の割合は減り、40歳代の割合は、20歳代よりも16.3ポイント低くなっています。



N=2,038

[年齢別の傾向]

(単位: %)



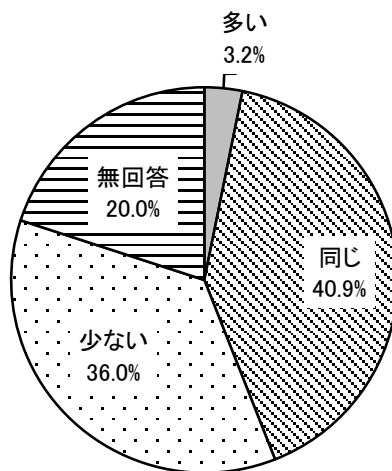
注) 全体[2038]には年齢無回答5人を含みます。

(3) 理想の子どもの数と現実との差異

問16-1) あなたに現在いる子どもの数、または持とうと予定している子どもの数は、理想と比べいかがですか。次の中か、1つだけ選び○をつけてください。

(※問16「1. 1人」～「5. 多ければ多いほど」の選択者のみ回答)

- 「同じ」が 40.9%で最も多いものの、「少ない」も 36.0%となっています。
- 一方、「多い」は 3.2%で僅かとなっています。



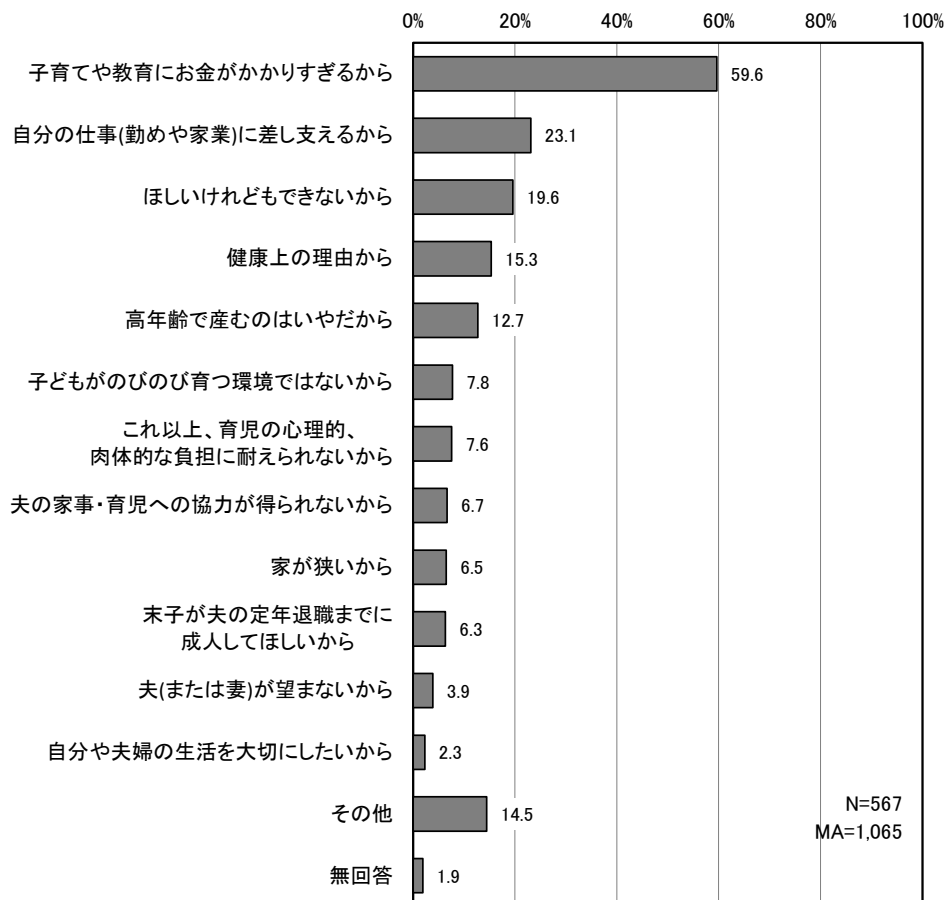
N=1,576

(4)理想より子どもの数が少ない理由

問16-2)あなたに現在いる子どもの数、または持とうと予定している子どもの数が、理想とする子どもの数に比べ“少ない理由”は、何ですか。

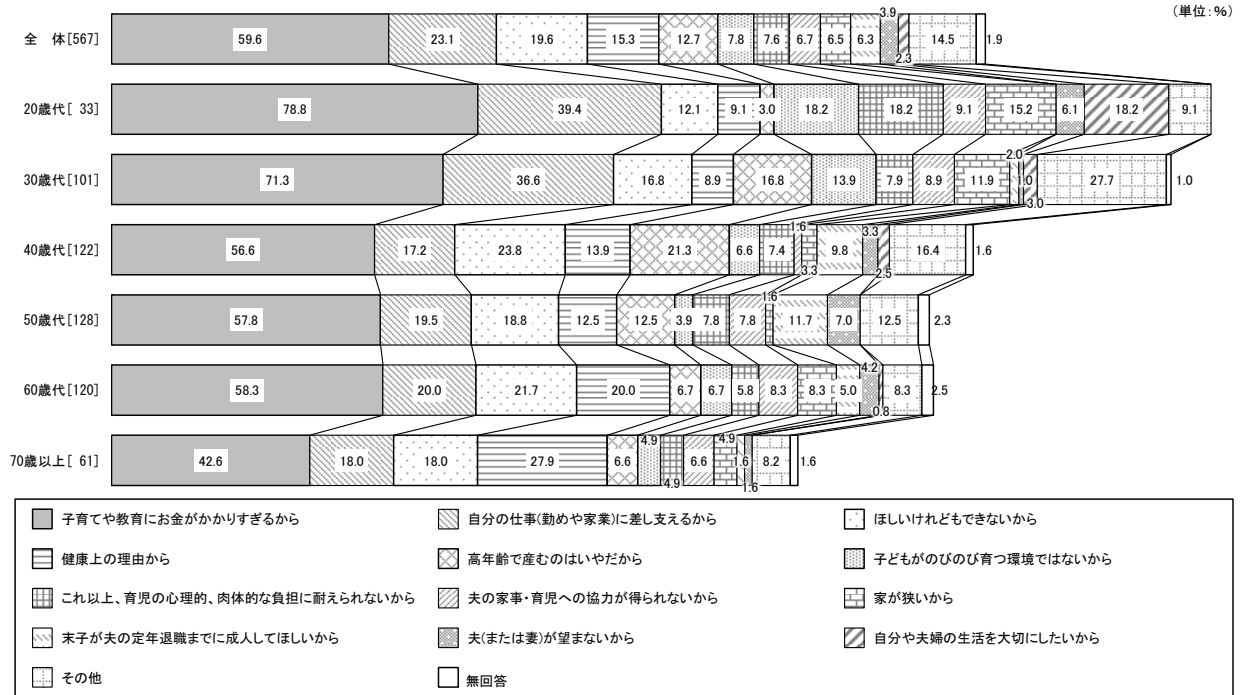
(※問16-1「3. 少ない」の選択者のみ回答)

- 理想より子どもの数が少ない理由については、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 59.6%と最も高くなっています。次いで、「自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから」が 23.1%、「ほしいけれどもできないから」が 19.6%、「健康上の理由から」が 15.3%などとなっています。
- 「その他」の理由としては、「結婚が遅かった」「高齢で産むのが怖いから」といった結婚・出産の時期に関する理由と「未婚のため」「離婚したから」といった配偶者がいないことに関する理由が大半を占めていますが、「出産に対する支援がないから」「安心して出産・通院できる、医療施設がない」といった出産の支援や環境が不十分とする意見、「収入（給料）が低く、共働きの為、安心して育てられない」といった雇用・収入意見に関する理由も寄せられています。
- 年齢別の傾向を見ると、各年代ともに「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が最も高くなっていますが、20～30 歳代では「自分の仕事に差し支えるから」の割合が他の世代よりも 10 ポイント以上高くなっています。



[年齢別の傾向]

※複数回答のため全体および各年代の合計割合が異なります。

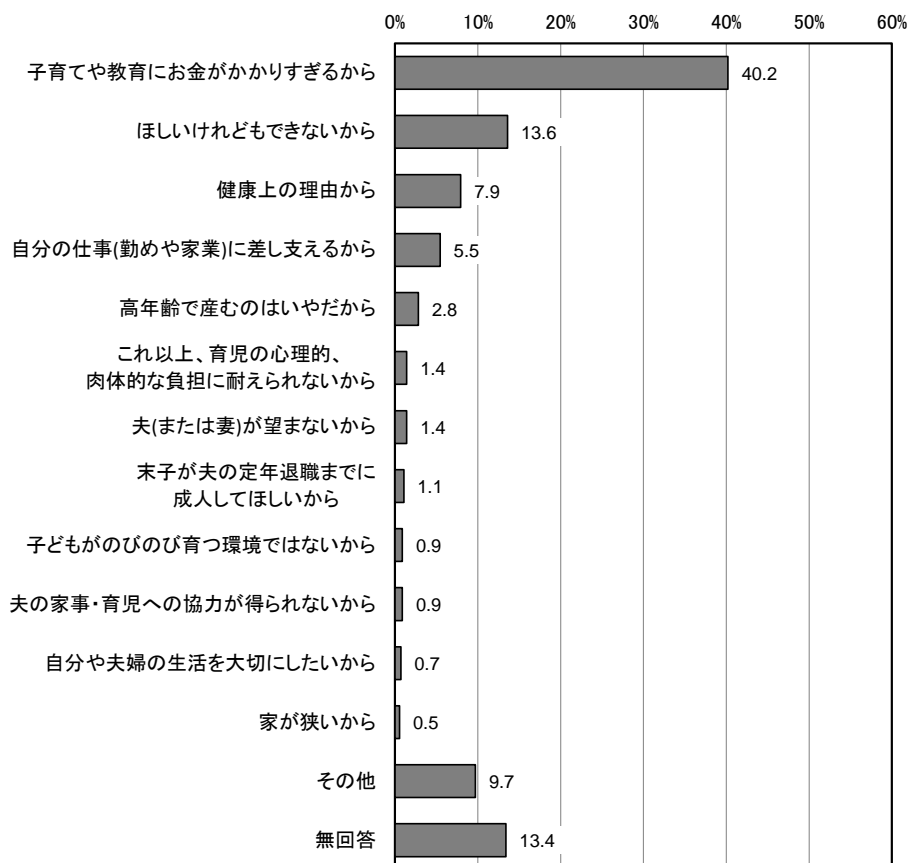


注) 全体[567]には年齢無回答1人を含みます。

□ 理想より子どもの数が少ない理由のうち、最も重要なものは、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 40.2%と突出して高くなっています。次いで「ほしいけれどもできないから」が 13.6%、「健康上の理由から」が 7.9%などとなっています。

[理想より子どもの数が少ない理由のうち、最も重要なもの]

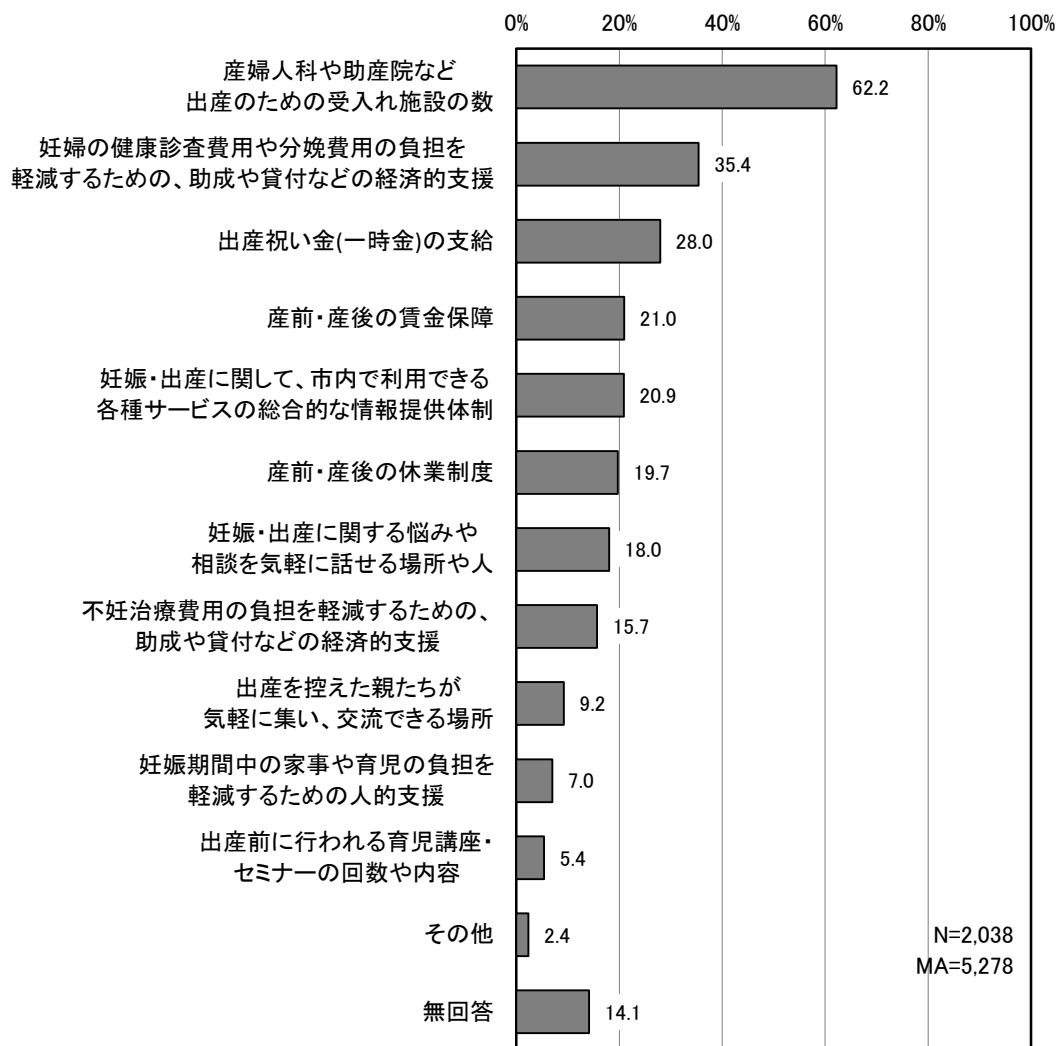
N=567



(5) 市の出産支援について

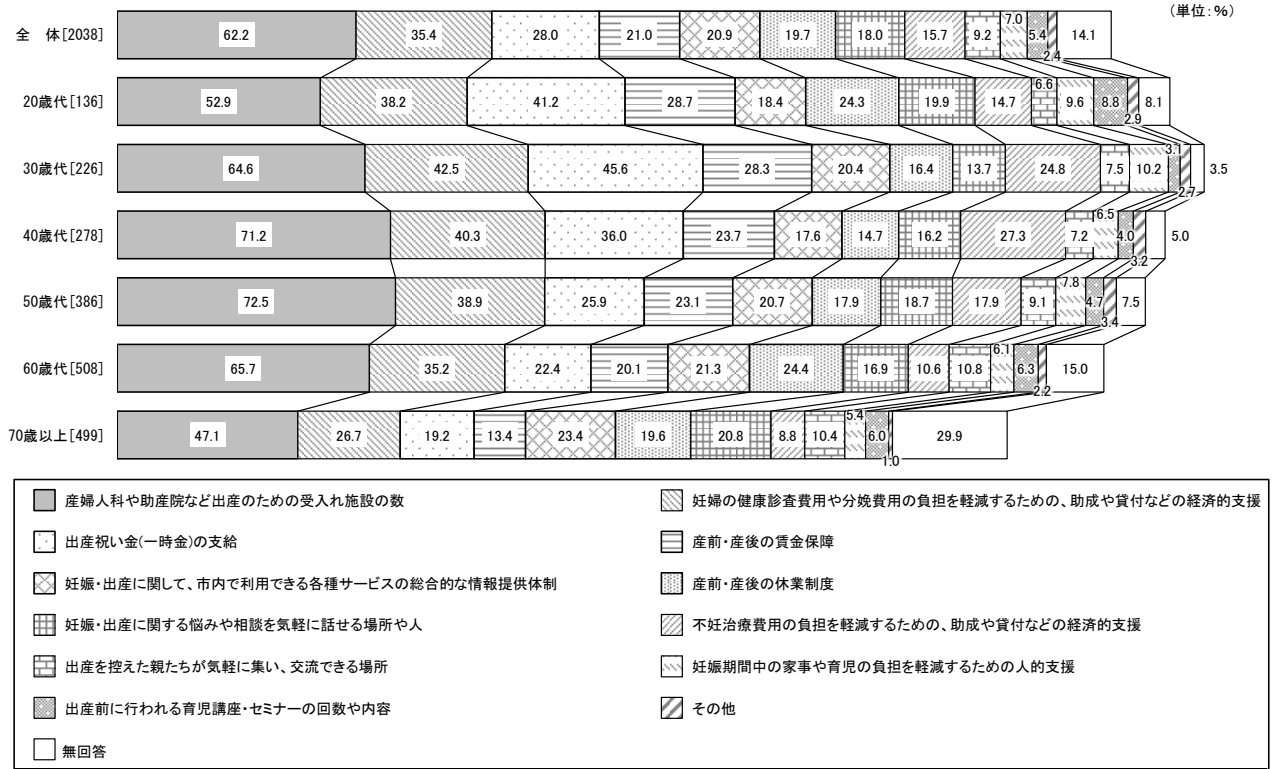
問17)より多くの人々が市内で安心して子どもを産むために、十和田市が民間事業者とも連携しながら、行政として実施する支援策について、今後、どのような取組みを充実させるべきだと思いますか。次の中から、あてはまる番号を3つまで選び○をつけてください。

- 「産婦人科や助産院など出産のための受入れ施設の数」が 62.2%と最も高くなっています。次いで「妊婦の健康診査費用や分娩費用の負担を軽減するための、助成や貸付などの経済的支援」が 35.4%、「出産祝い金(一時金)の支給」が 28.0%、「産前・産後の賃金保障」が 21.0%などとなっています。
- 「その他」の支援策としては、やはり「出産ができる病院」「里帰り出産ができるような受け入れ態勢の充実」といった出産のための環境整備が多く寄せられたほか、子育て全般に係る支援に関するもの（産後の不慣れな数カ月を助けてくれる人が必要）等）、保育環境の充実に関するもの（夜間保育）等）、職場環境の整備に関するもの（出産・子育てのしやすい職場環境）等）などの意見が寄せられています。
- 年齢別に見ると、各世代ともに「産婦人科や助産院などの出産のための受入れ施設の数」の割合が最も高くなっています。また、20・30歳代では「出産祝い金（一時金）の支給」の割合が他の世代よりも高くなっています。



[年齢別の傾向]

※複数回答のため全体および各年代の合計割合が異なります。



注) 全体[2038]には年齢無回答5人を含みます。

第7節 子育てについて

(1)市の子育て支援について

問18)より多くの人々が市内で“安全・安心かつ快適”に子育てをするために、十和田市が民間事業者や地域住民とも連携しながら、行政として実施する支援策について、以下の取組みはどの程度効果があると思いますか。記入例にならって、次表に示した1～12の項目ごとに、あてはまる番号を1つずつ選び○をつけてください。

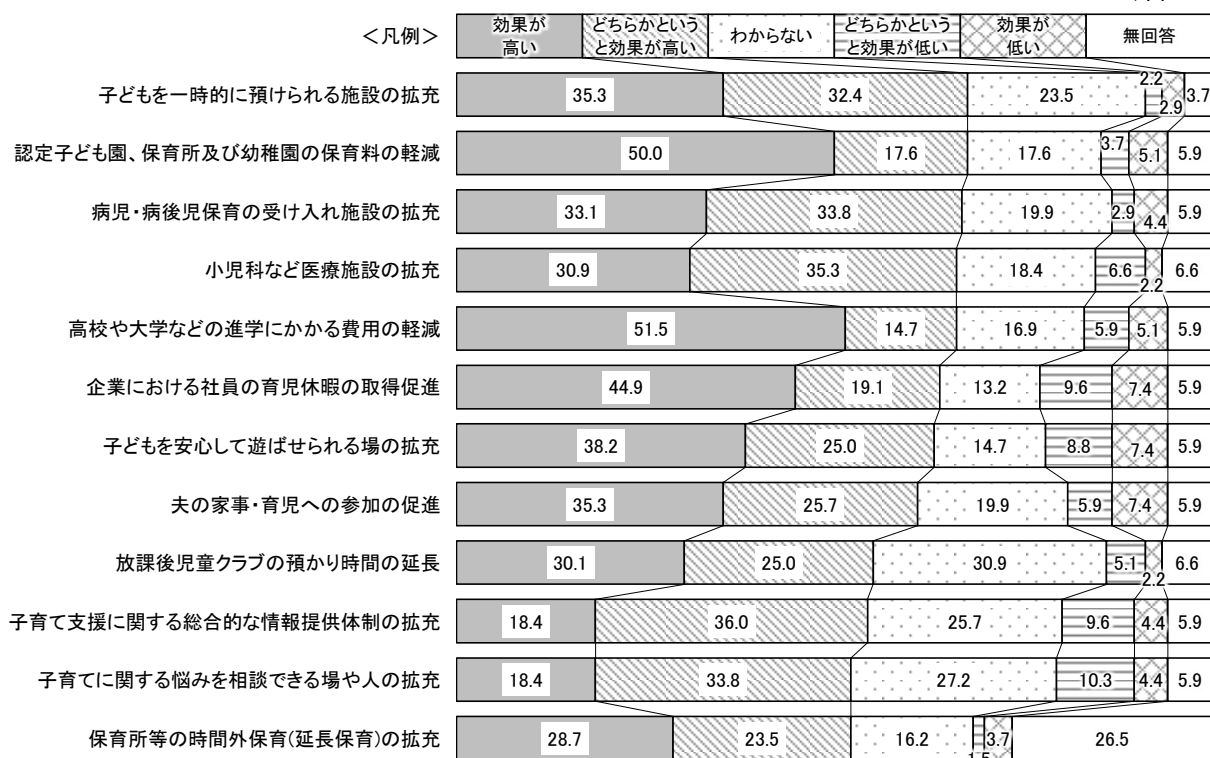
- 「効果が高い」「どちらかというと効果が高い」の合計が高い支援策は、「子どもを一時的に預けられる施設の拡充」の61.6%、「認定子ども園、保育所及び幼稚園の保育料の軽減」の60.6%、「高校や大学などの進学にかかる費用の軽減」の59.9%などとなっています。
- 年齢別の傾向を見ると、20～30歳代では「認定子ども園、保育所及び幼稚園の保育料の軽減」「高校や大学などの進学にかかる費用の軽減」に加えて「企業における社員の育児休暇の取得促進」について「効果が高い」とする割合が高くなっています。
- 更に30歳代では、上記に加えて「子どもを一時的に預けられる施設の拡充」「病児・病後児保育の受け入れ施設の拡充」「小児科など医療施設の拡充」「子どもを安心して遊ばせられる場の拡充」について「効果が高い」とする割合が高くなっています。

(単位:%)

＜凡例＞	効果が 高い	どちらかという と効果が高い	わからない	どちらかという と効果が低い	効果が 低い	無回答
子どもを一時的に預けられる施設の拡充	33.2	28.4	19.0	4.4	2.4	12.6
認定子ども園、保育所及び幼稚園の保育料の軽減	35.3	25.3	19.6	4.3	2.9	12.6
高校や大学などの進学にかかる費用の軽減	37.4	22.5	17.3	6.7	3.9	12.2
小児科など医療施設の拡充	27.0	32.6	19.1	6.0	2.1	13.1
子どもを安心して遊ばせられる場の拡充	28.0	31.3	17.7	7.1	3.9	12.1
病児・病後児保育の受け入れ施設の拡充	29.1	28.4	21.9	5.3	2.8	12.6
放課後児童クラブの預かり時間の延長	24.8	32.3	23.3	5.0	1.8	12.8
企業における社員の育児休暇の取得促進	30.3	25.7	20.4	6.4	4.4	12.7
保育所等の時間外保育(延長保育)の拡充	30.2	24.2	15.4	3.4	3.3	25.5
夫の家事・育児への参加の促進	20.4	32.1	25.0	6.5	3.4	12.6
子育てに関する悩みを相談できる場や人の拡充	13.9	33.9	31.0	6.2	2.3	12.7
子育て支援に関する総合的な情報提供体制の拡充	13.6	33.3	32.0	5.8	1.9	13.4

[年齢別の傾向（20歳代）]

(単位:%)



[年齢別の傾向（30歳代）]

(単位:%)

